

Origami Tanteidan Newsletter 折紙探偵団新聞

40号

新王者



第四回・やっと入門の後編

哲学を学ぶことはできず、せいぜい哲学することを学ぶことができるだけである。

1. カント

【純粹理性批判】

今回も、前回に続いて、「折紙」と「紙を折ること」との間の違いについて考えてみます。

前回は、「紙を折る」という行為がどのような意図でなされたか、ということに注目して考えてみました。ところが、折紙は(折紙に限りませんが)一人でこそそととするものではありませんから、どうしても「他人の視点」が入ってきます。

「風呂敷」と「4分33秒」

皆さんはジョン・ケージの「4分33秒」という作品を知っているでしょうか(折紙作品ではありません、念の為)。この作品は、今世紀を代表する作曲家の1人であるケージが1952年に作曲したものです。この曲は、休符だけでかかれています。つまり、演奏家はいっさい音を出さないのです。

折紙でこれと似たようなものといえば、「風呂敷」ということになるでしょう。つまり、まったく折っていない正方形の紙です。さて、まったく音を出さない「4分33秒」が音楽として認められている(それどころか、この作品は自他ともに認めるケージの代表作です)のであれば、まったく折っていない「風呂敷」も折紙といえるのでしょうか。

そのことを考えるために、しばらく折紙から離れて、「4分33秒」について詳しくみてみましょう。

「4分33秒」はなぜ音楽か

「4分33秒」において、ケージは、聴

衆に音を聞かせなかったのではありません。ケージの主張は、「演奏家が音を出さなくとも、音はすでにそこにあるのだ」ということなのです。実際、どんなところでも、耳を澄ませば何らかの音が聞こえてきます。

さて、「4分33秒」が実際に演奏さ



れる場面を考えてみましょう。演奏家は、出版された楽譜を使って練習をします。演奏会の当日、会場には聴衆が足を運びます。演奏家が登場すると聴衆は静かになり、耳を澄ませます。演奏家が演奏を始めます。そう

ん。

もちろん、ここでいう「一般的な形式」は、完全に明示されているわけではありませんし、「規則」というほど強い概念ではありません。

「風呂敷」は折紙か

さて、「風呂敷」に話を戻しましょう。折紙についても、音楽と同じような「一般的な形式」があるはずで

うでなければ、紙あるところらにすべて折紙あり、ということになってしまい、「折紙」と「紙を折ること」の違いがわからなくなってしまうばかりか、この世に存在する紙のすべてが折紙の作品である、ということになってしまいます。

そして、「風呂敷」は折紙か」という問いに対する答えは、「折紙の一般的な形式」をどう考えるかということ

に依存するでしょう。

しかし、「折紙の一般的な形式」は、音楽よりもさらに漠然としています。私たちは「一般的な形式」の内容を明確にしてゆかなければなりません。そのためには、私たちがすでに共通

Man kann niemals Philosophie,
sondern höchstens nur philosophieren lernen.

Immanuel Kant

„Kritik der reinen Vernunft“

して、音が聞こえるのです。

こう考えてみると、「4分33秒」は「一般的な音楽の形式」に完全に則っていることがわかります。「4分33秒」は、ほかの音楽作品と同様、演奏されなければなりません。そして、音楽が演奏されるためには、それがコンサートホールであろうとプライベートな空間であろうと、ある「一般的な形式」に則っていなければならませ

して持っているものを取り出してきて理論化するというだけではなく、私たちが日々の実践を積み重ねることで、内容そのものを固めてゆくということも必要です。

この連載も、次回からはより具体的な問題を考えることにします。

ご意見、ご感想、ご質問、ご反論等
どしどしお寄せ下さい。



折紙辞典

-付録-

折紙辞典編纂室編

主幹 前川 淳

まえかわ じゅん Jun Maekawa

■「折紙辞典、何度読み返しても爆笑です」(1996.2 吉野一生)

付録1 日本折紙年表

本邦の折り紙の歴史について概観する。
6-7世紀頃 日本に紙の製法が伝わる。越前(福井県)の伝承では、「川上御前」という美しい女性によって紙の製法が伝えられたとされる。にわかには信じがたい話である。

7-17世紀頃 よくわからない。岡村昌夫氏がよくわからないと言っているくらいだから、ほんとうによくわからない。

7-17世紀頃 折鶴が考えだされる。以来、推定56億7千万羽が折られる。(信じないように)

1797年 「千羽鶴折形」が出版される。のちに、桑名市の街おこしに貢献する。

18-19世紀 いろんなことがある。岡村氏と高木氏に聞いてくれ。

1926年頃 木下一郎氏(当時3歳)が独自に「宝船」を創作する。

1969年 「日本折紙協会」の前身である「日本折紙作家協会」が発足する。この頃からトーフ、スシ、チョトマテクダサイなどとともに、オリガミという言葉が海外でも通用するようになる。

1977年 折り紙がブームになる(「折り紙を楽しむ本」-1977-第5版-の帯の惹句による)以来、折り紙は常に静かなブームを呼んでいる。

1985年 阪神タイガースが日本一になる。

1989年 山口真氏によって「ギャラリーおりがみはうす」が開設される。日本で初の、常設の折り紙愛好家のたまり場に発展する。

1990年 木村良寿氏らの気まぐれな思いつきから「折紙探偵団」が発足する。名前からみて真面目な団体とは思われないが、実体も名前に相応しく発展する。

1993年 「季刊をる」が創刊される。折り紙と折る文化を考え続けている。(ところで「折る文化」ってなんだろう。建国の父がサクラを折ったことで有名などところを見ると、アメリカ文化のことかもしれない)

1999年第7の月 折紙探偵団新聞第57号の編集会議が行われる。

付録2 故事成語

折り紙に関することわざ等をあげる。古人の知恵を味わってもらいたい。

三十六折り折らぬに如かず
意味:折り込みが多いと、ポール・ジャクソンさんから文句を言われる。知子豹変(ともこひょうへん)

意味:布施知子さんの機嫌が急に悪くなる。

嘘から出た真

意味:山口真さんの思いつきから事が始まる。

魯魚の誤り

意味:文字遣いに誤りはつきものだ。例:魚竊庵義道の「千羽鶴折方」

間違いはふたつ! 制限時間は30秒!

羊頭狗肉

意味:頭の部分を見ると羊のようだが、もしかしたら犬かもしれない。

類:竜頭蛇尾(意味:正方形で竜を折るとどうしても体が短くなる)

虎と狸とカバさんよ

類:捕らぬ狸の皮算用

意味:虎と狸と河馬を折ってみました。

一紙創伝(いっしそうでん)

意味:一枚の紙から作品を創り、それを伝えること(おおっ、かっこいいじゃないか)

付録3 基礎単位

折り紙における基礎的な単位をあげる。枚 作品の評価を左右する重要な単位。通常作品では少ないほど、ユニット作品では多いほど、敵を驚かせることができる。敵?

工程 図の描き方によってどうにもなるきわめて曖昧な単位。

ミクロン(μ) 羽鳥昌男氏の折りのずれを表す単位。

メートル(m) TV番組での折り紙作品のスケールを表す単位。

2カ月 「折紙探偵団新聞」が刊行される時間の単位。のびちぢみがある。

2000文字 当ページの文字数。多いようで少なく、少ないようで多い。(などと書いて文字数を合わせる)

付録4 折り図の描き方

「折り図」とは、「折り紙作品の工程を表す図」の「紙作品の工程を表す」の部分を省略した語である。哲学者H氏による検討をみるまでもなく、「曖昧な日本のわたし」としみじみとつぶやきたくなるような、実に日本語らしい不思議な言葉であるが、実際に「折り図」を描く際には、語とは逆に、いたずらな省略を慎み、きちんとした一定の組み立てを踏まなければならない。(おまえにいわれたくねーよってか)

一般的に言って、「折り図」は、作品名と作者名に始まって、「できあがり」で終わる。以下、それらに解説を加え、よりよい折り図作成の一助としたい。

作品名 作品の名前である(そりゃそうだ)例:なかよしのパンダ、なかよしの熊、なかよしのトンボ、なかよしのトガリハリナガケンミジンコ。

作者名 創作者の名前である(もったもた)「不詳」、「伝承」といった珍しい名がみられる場合もある。

作者のひとこと 創作の際に苦心した点などを書く。読んでももらえない。(1)(2)(3)・・・工程に付けられた順序番号である。いきなり(3)で始めてはいけない。

以下次号 図の完成が締切に間に合わなかったことを示す。

できあがり 作者がこうあってほしいという、理想化された完成図を描く。

後記

「折紙辞典」は、折り紙に関する世界で初めての辞典として、連載開始以来、その非実用性と楽屋落ちが一部で認められ、成りゆきにしがたがって書き続けられ、今日に至っている。1年余の連載の後、ここに第1版の完成をみて、各界の諸氏のご寛容に感謝するとともに、次号をどうするかについて何も考えていないわたしを発見しているところである。今後も、「前川さんて、あんなバカな文章を書くひとだとは思わなかった」という言葉を励みにして、一層の精進をはかる所存である。1996年10月

折紙辞典編纂室 主幹 前川淳

岡村昌夫

第27回



おかむら まさお Masao Okamura

■吉野君がいなくなって、私のマックはホコリをかぶっている。

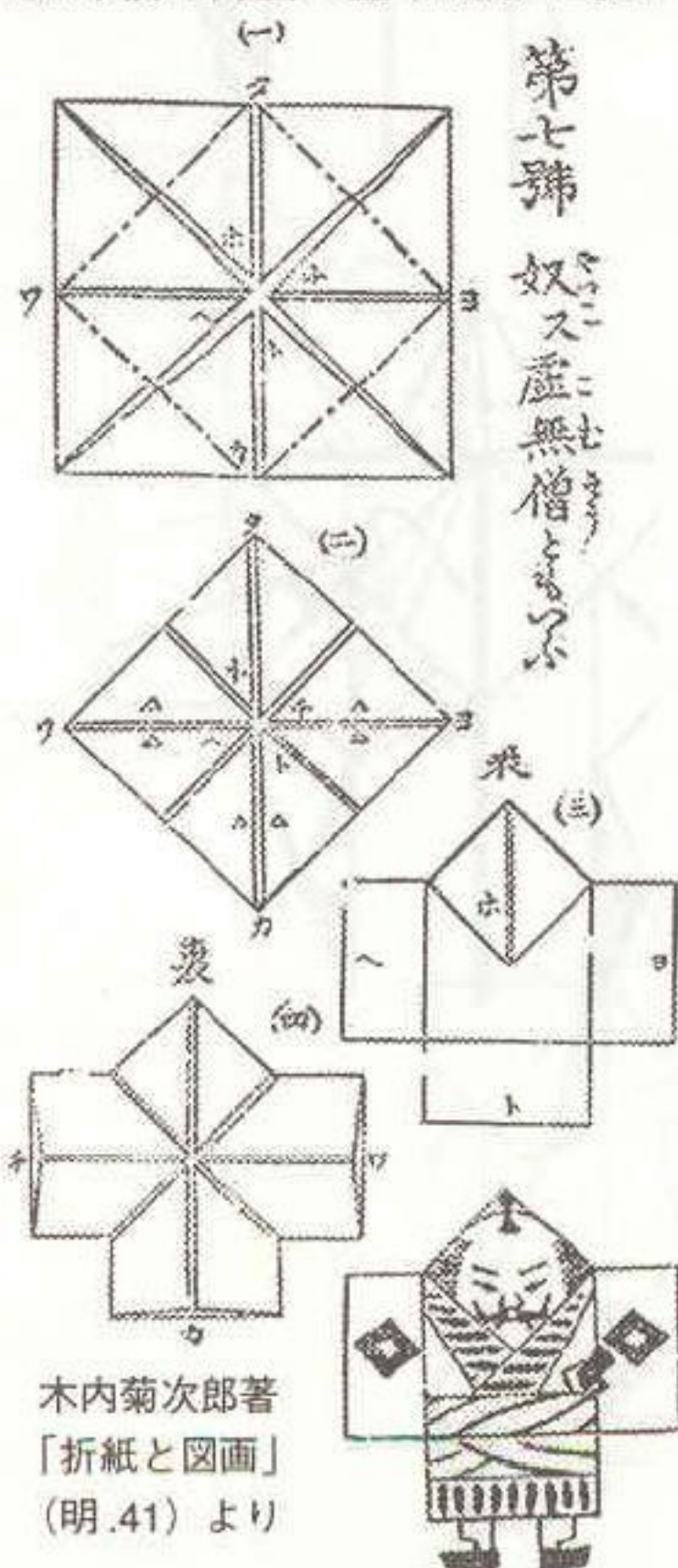


[前々号の左ページ]

好評の折紙辞典の「やっこ」の項で前川氏が「岡村昌夫氏によると明治期以降のものである。それ以前は二つ折りにしたかたちで「虚無僧」とされていた。」と書いておられたが、事実と少し違う点があるので、書いておきたい。実は明治になってからも「二つ折りにしないかたち」を「虚無僧」と呼んでいたという事実があり、それが「奴」になったのは明治40年のことなのである。

[見立て変え]

虚無僧は古くはすり鉢を伏せた様な形の笠をかぶっていたので、二つ折りにした奴さんでピタリだったのだが、後に筒型の笠(天蓋)に変わっ



木内菊次郎著
「折紙と図画」
(明.41)より

てしまったので、折り紙としては虚無僧以外の物への「見立て変え」の必要が生じたはずである。明治18年『幼稚園初歩』(飯島半十郎著)では「ふくらすずめ」、同24年の『手工教授法』(浅尾重敏著)では「人形」、同39年お茶の水付属幼稚園の『保育要項』およびその別冊付録の『手技図形』では「襦袢」、同41年の京都市小学校長会が出した『手工科教授細目』では「弥之助」(ヤジロベエのこと)、というように苦労しているが定着しなかった。(ちなみに、昭和49年『紙工芸 技法大事典 上』に「豆蔵さん」とあるのも、ヤジロベエのことである。)

そして「虚無僧」も根強く残り、明治27年の石川県の小学校『手工科実施方案』を始め、各種資料にその名が見えている。しかしこれらは全て「二つ折りにしない形」であるから、すでに写実的な見立てからは遠ざかっているといえよう。

[奴風から奴へ]

「見立て変え」の一種として「奴風」が登場するのは明治34年の高等師範付属小『手工科教授細目』である。考案者は同年高師助教授になったばかりの岡山秀吉であろう。この見立て変えは全国に広がって行った様だ。明治40年の長野師範付属小、同4年熊本県の『教授細目』がそうになっている。

岡山秀吉はその後明治38年『手工科教授書』同39年『手工科教授細案』などでは「奴風」にしているが、同41年の『手工科教授法』になると、「奴」としたあとに(奴風、コム僧)と並記している。(ただし、岡山秀吉の場合は全て、奴さんの下顎の部分の横一文字に折り込んでいるので、厳密に言えば別の作品とすべきなのかも知れない。)

[奴の初出は明治40年]

しかし、初めて「奴」が出てくるのは上記の岡山より早い阿部七五三吉の著書であった。阿部は岡山の後輩にあたり、後に高師教授になった人で、わたしの推定では、幻の折り紙名人「阿部たづな」その人なのであるが、その阿部が「やっこ」の命名者かも知れないとは興味深いことであった。

阿部は、明治40年6月に出た『漢文 手工教科書』ではまだ「虚無僧」にしているのだが、ほぼ同時に出た同年9月の『普通手工提要』では「奴」と書いている。岡山が「奴」にしたのはその翌年であった。勿論、見立てとしては「奴風」が前提にあって始めて「奴」が成立し得るのであって、岡山の「奴風」が普及していたからこそ阿部の「奴」が受け入れられたのであろう。木内菊次郎は明治38年の『手工科教本』では「虚無僧」と書いたが、同41年「折紙と図画」では「奴」を採っている。明治40年に大改訂された師範学校令で手工が必修になったため、同41年には前記の岡山の著以外にも、縄野勝彦、佐野正造らの著、その他の手工教授法関係の本が各種出版されているが、私が見る限りみな「奴」である。これほどはっきりと一斉に変わってしまうのは奇妙のようだが、当時の高等師範学校の権威はそれほどのものだったのである。

それにしても現代はすでに「やっこさん」が何者であるか分からなくなってしまった。「三方」も「菊皿」も「角香箱」も、見立て変えが急がれている。伝統を惜しむ声も多い。しかし、伝承作品の見立て変えは、「伝統的に」行われて来たのである。

なお、「奴風」が「奴」に代わったのはなぜだろうか。(以下次号)

鹿 Deer (第2回)

宮島 登

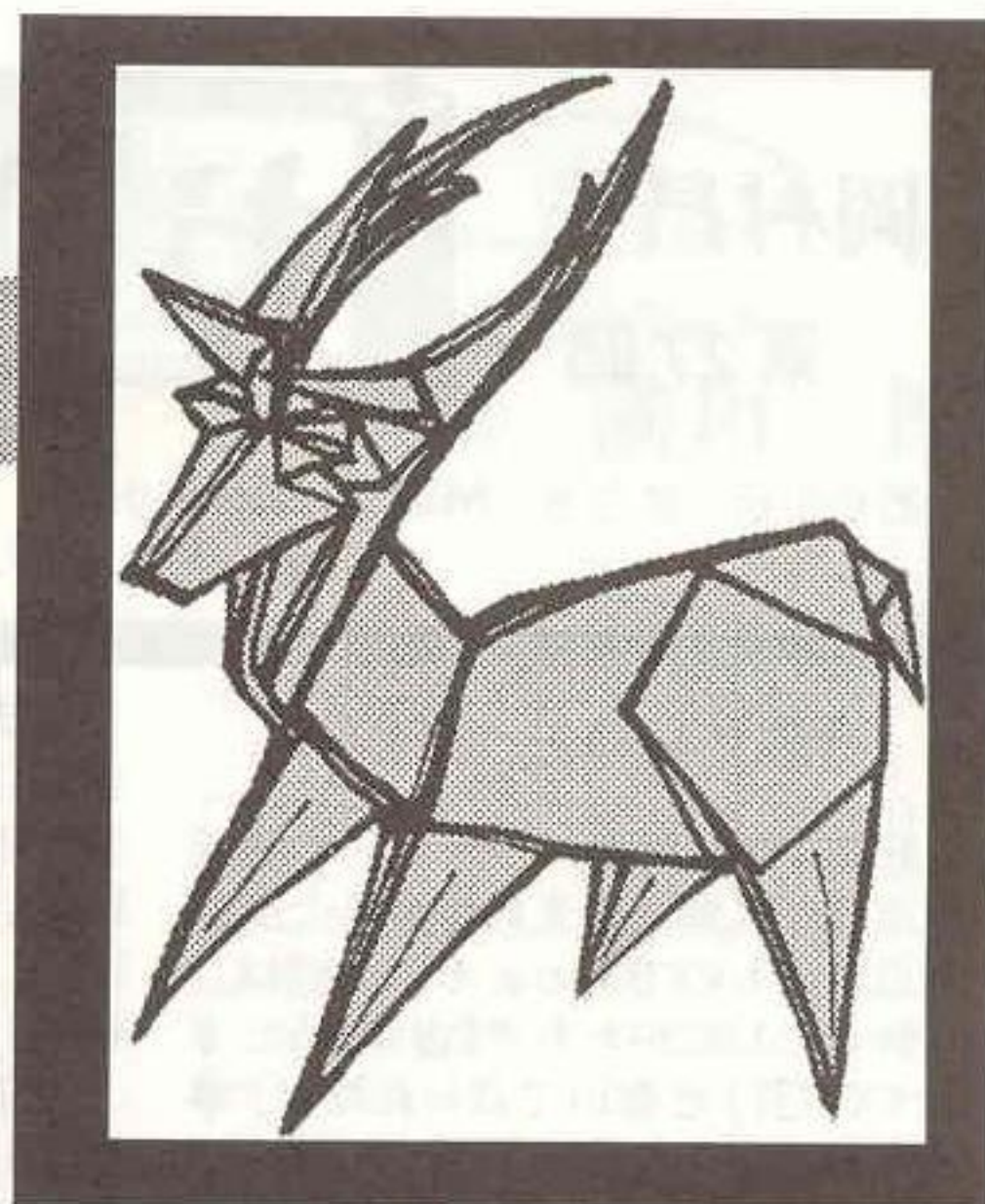
by Noboru Miyajima

<作者から一言>

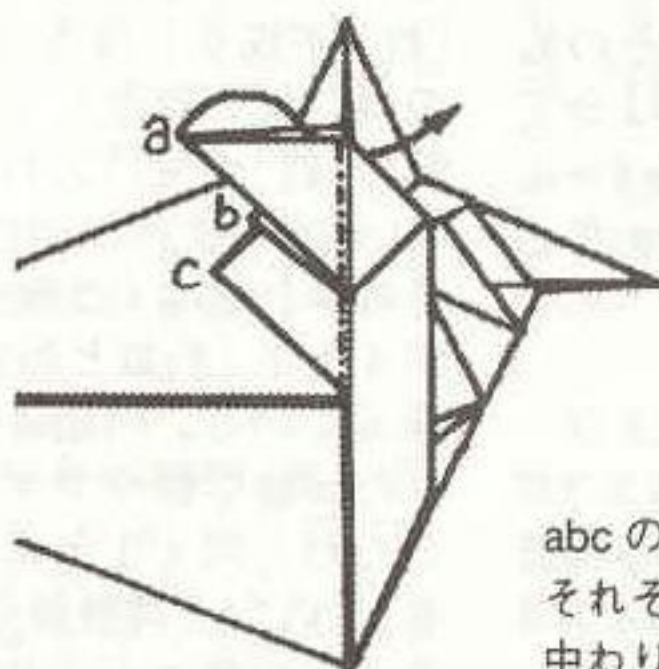
探偵団新聞が同人紙であることを思い出させるようなお粗末な折り図で申し訳ありません(笑)。多くの人に折っていただければ幸いです。

<訂正とお詫び>

前号(39号)の折り図で22と23の図の位置が入れ替わっていました。訂正してお詫びいたします。

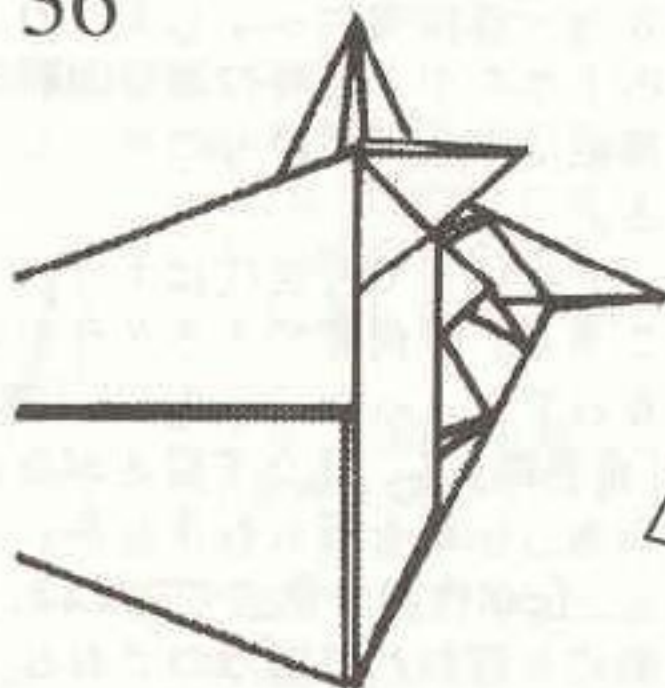


35



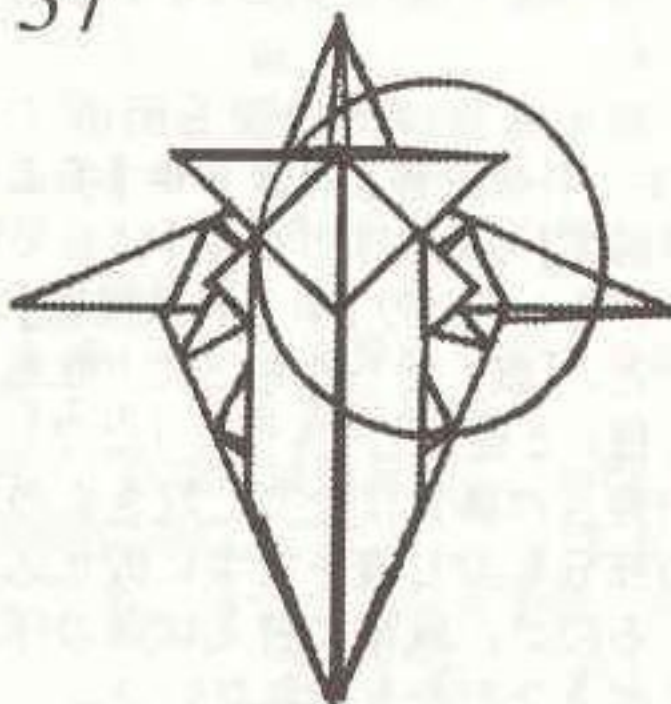
abcの角を
それぞれ
中わり折り

36

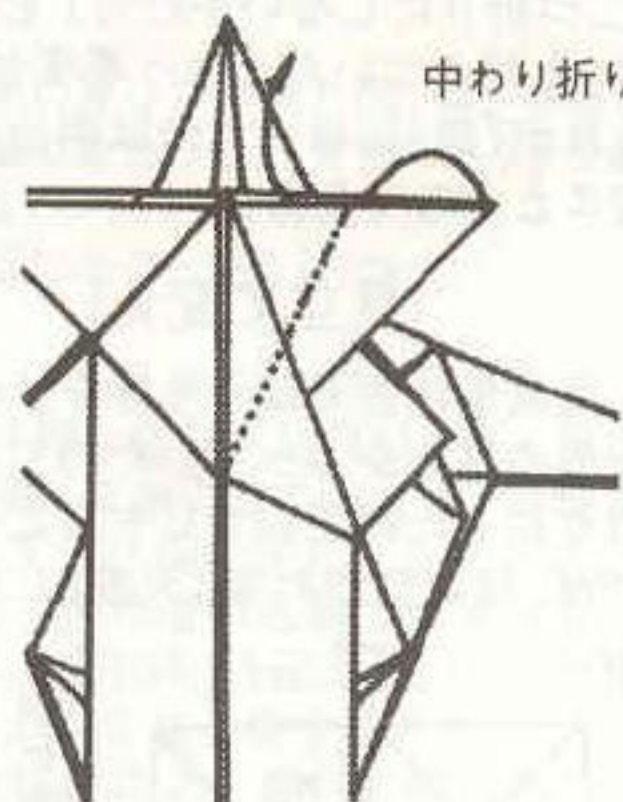


反対側も同様に折る
(22~35)

37

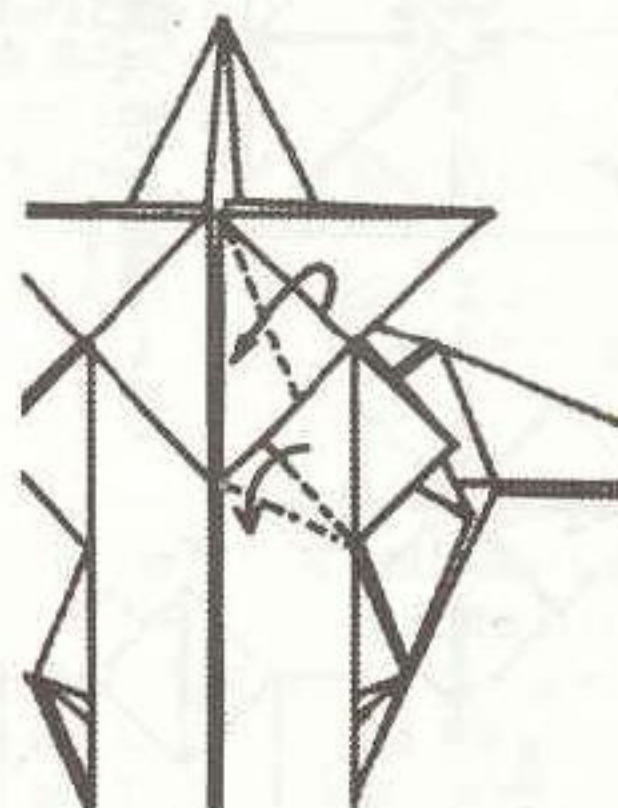


39

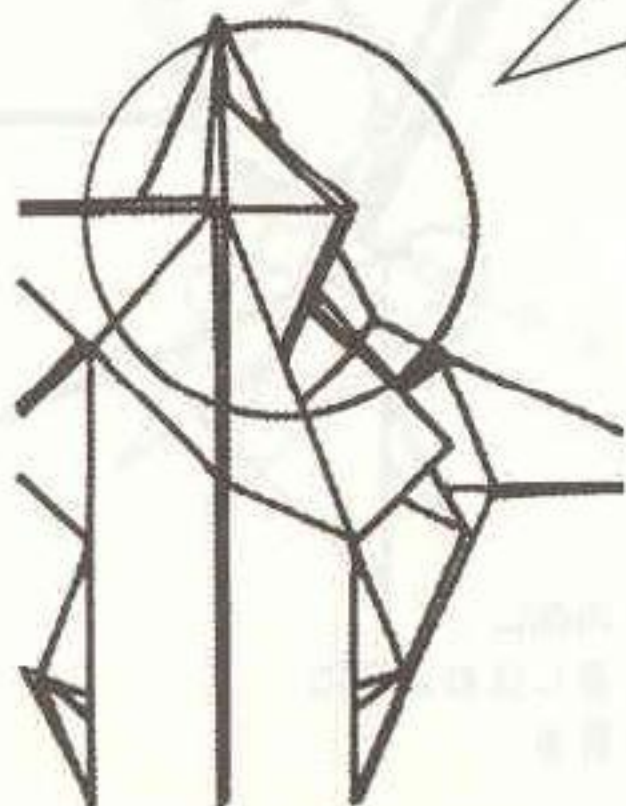


中わり折り

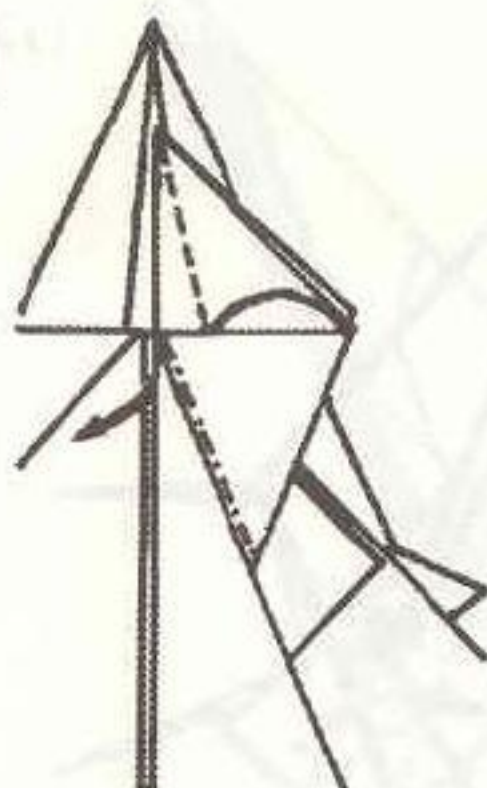
38



40

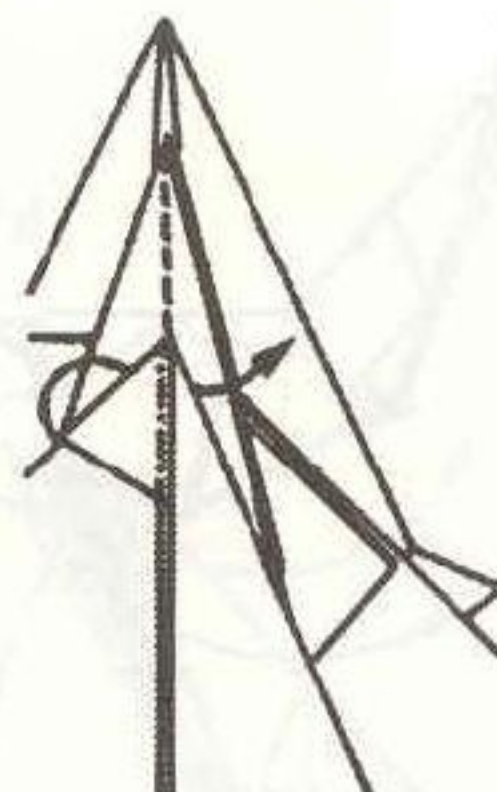


41



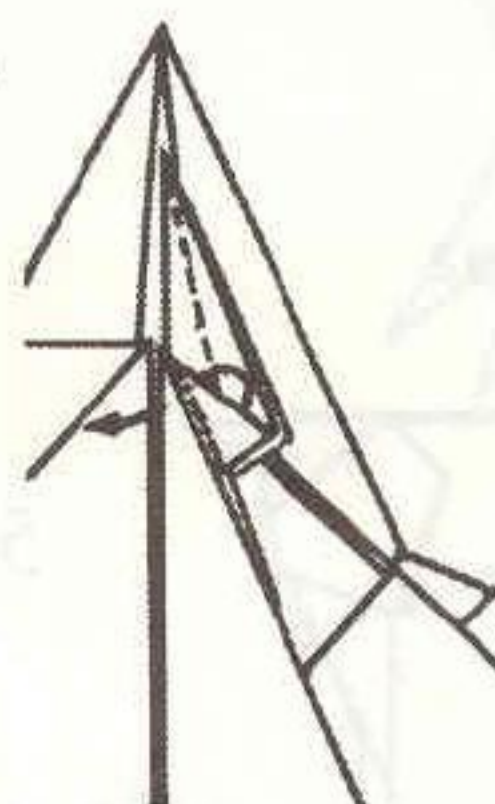
反対側も同じ

42



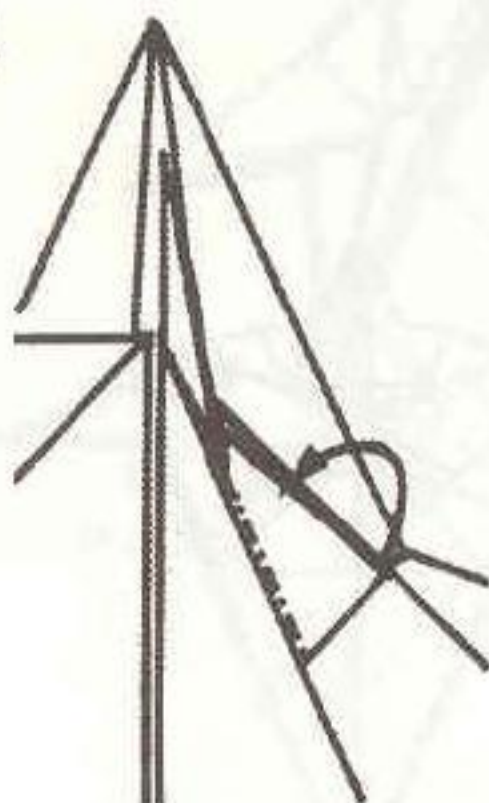
反対側も同じ

43



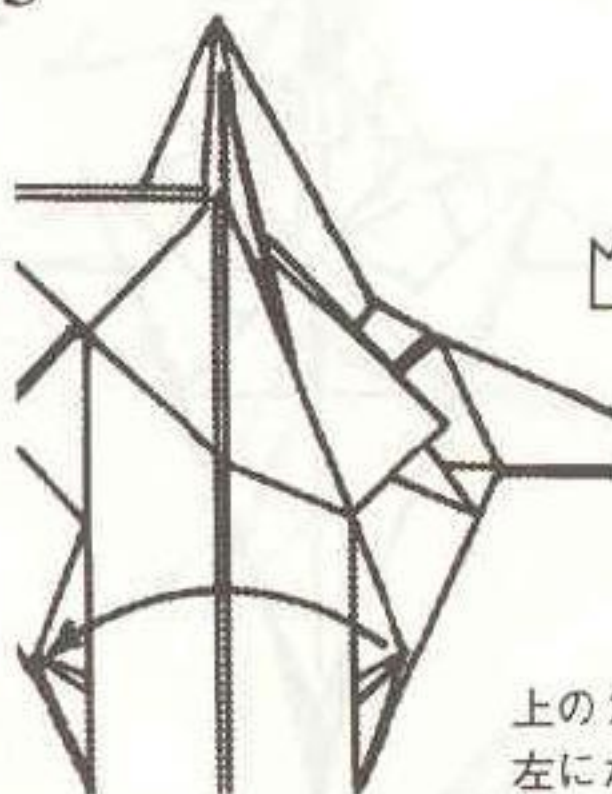
反対側も同じ

44



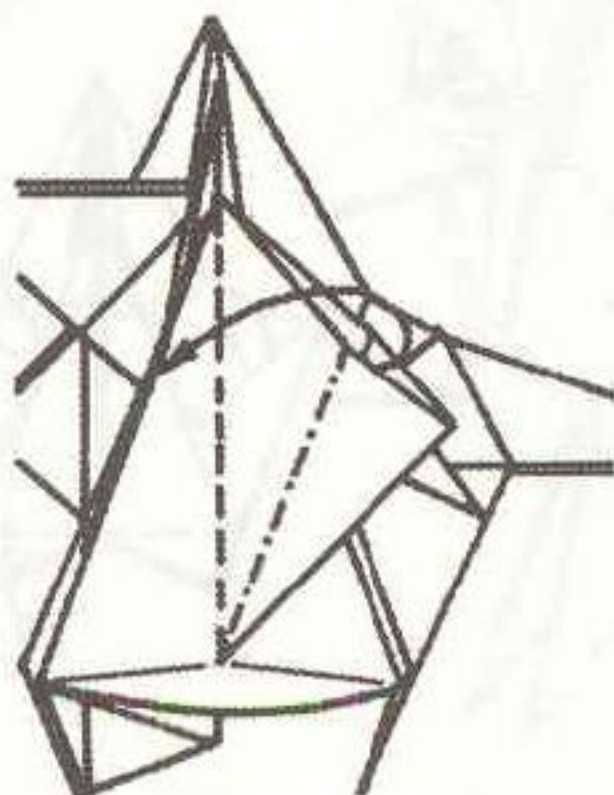
中わり折り

45

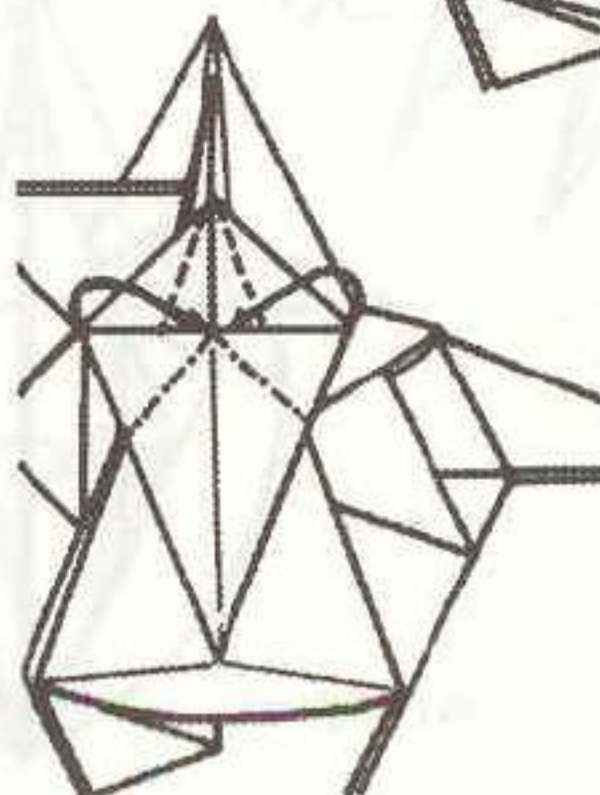


上の2枚を
左にたおす

46

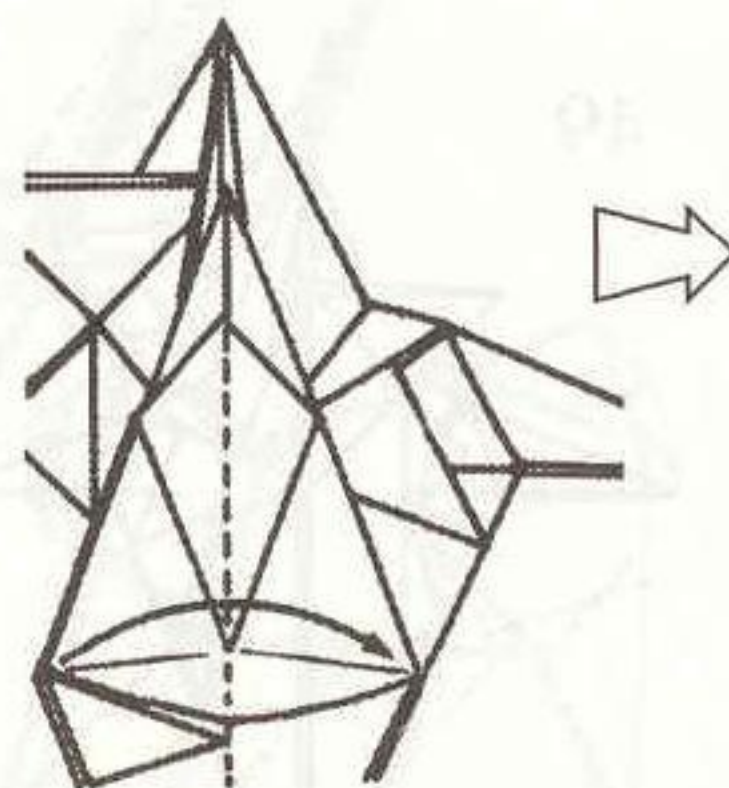


47

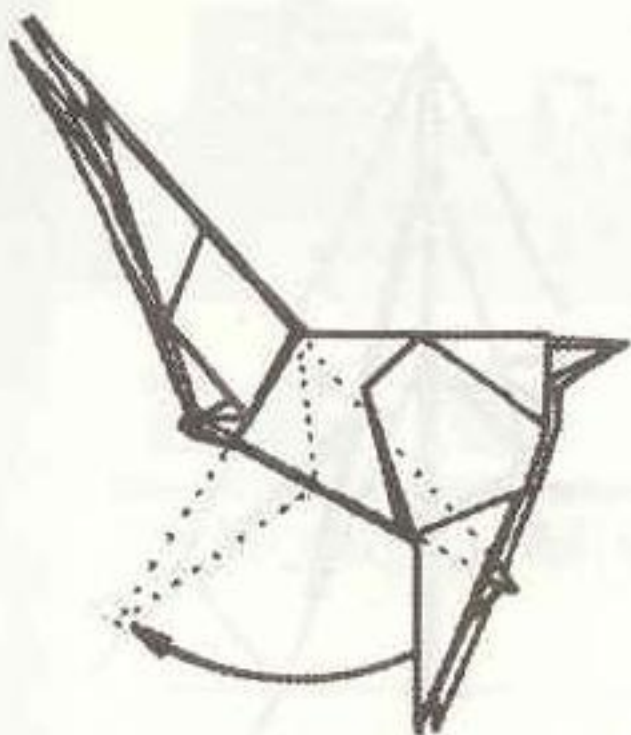


もどす

48

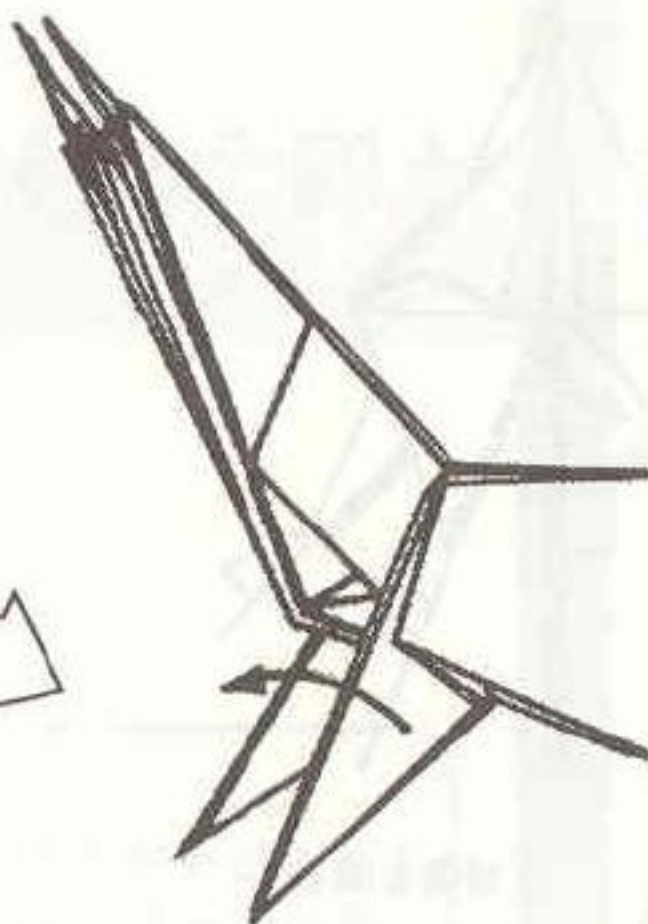


55



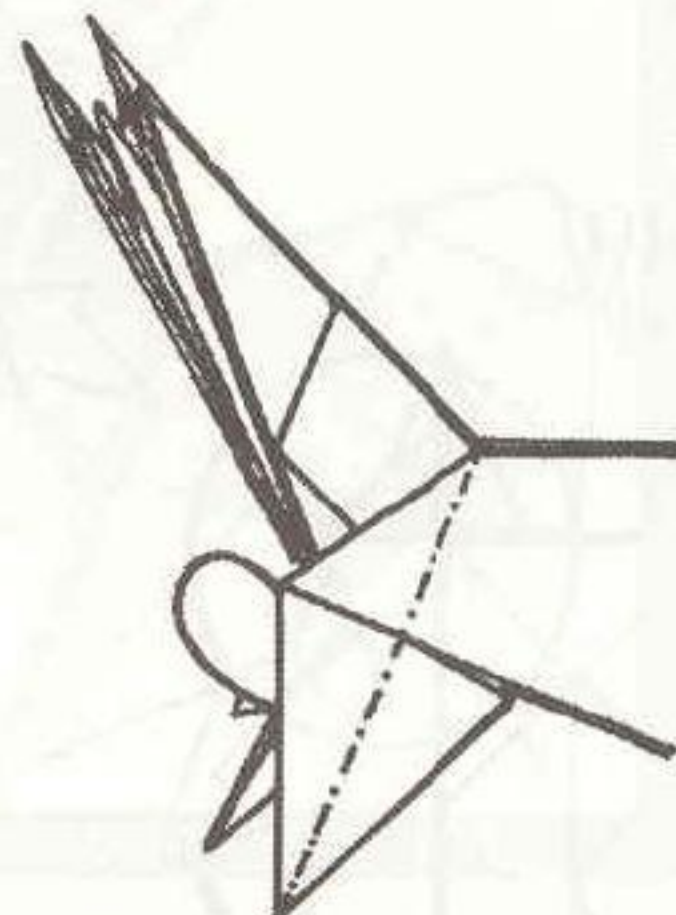
中わり折り

56



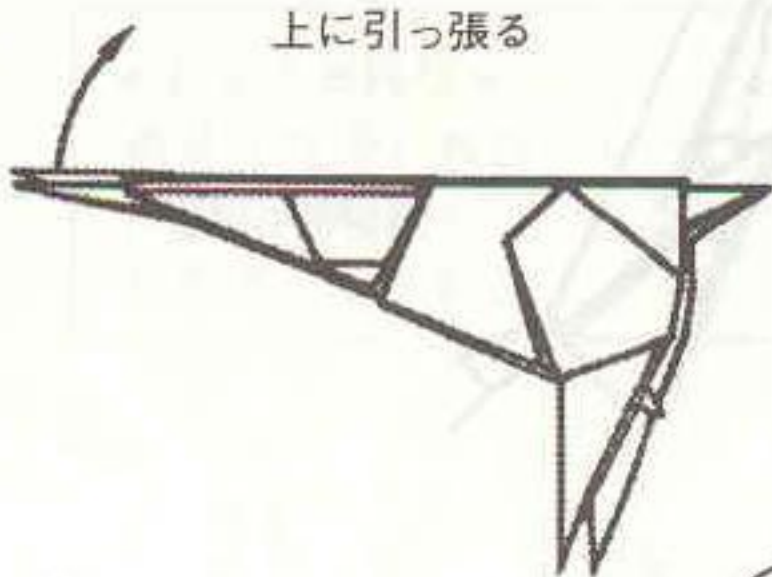
紙を一枚引き出す

57



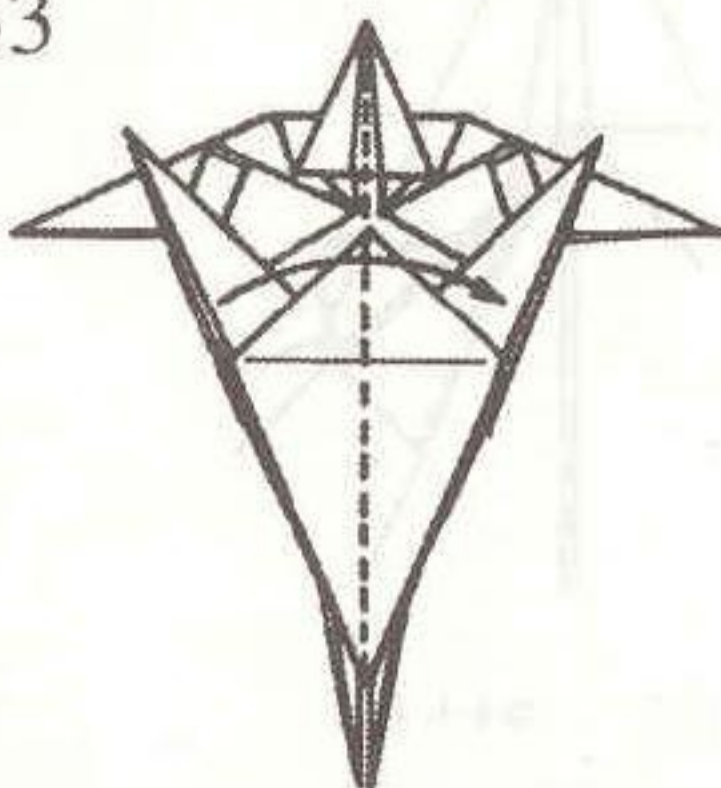
内側に
差し込むように
折る

54

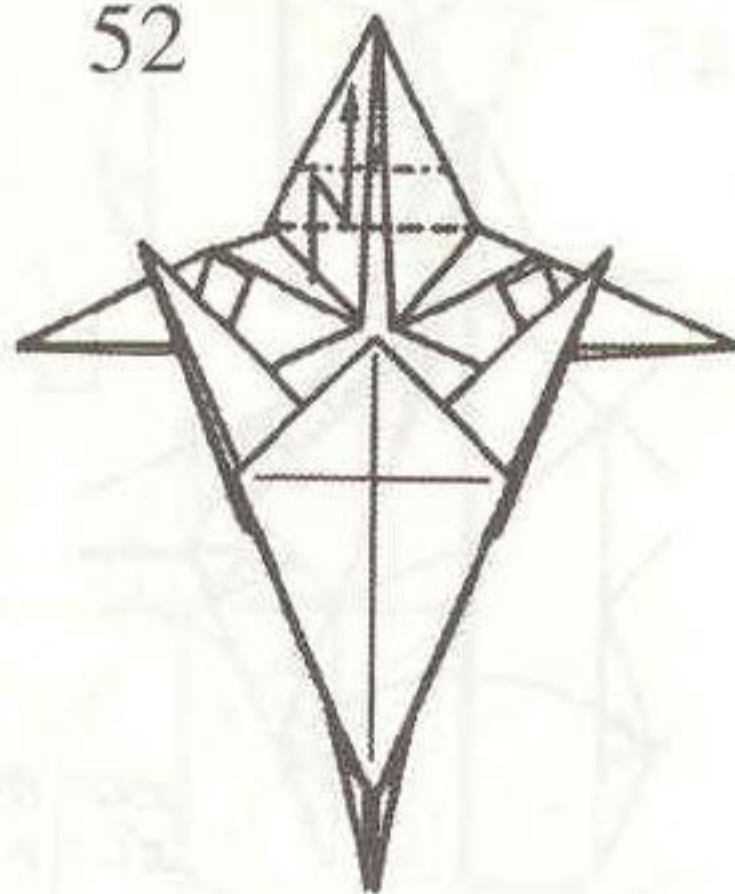


上に引っ張る

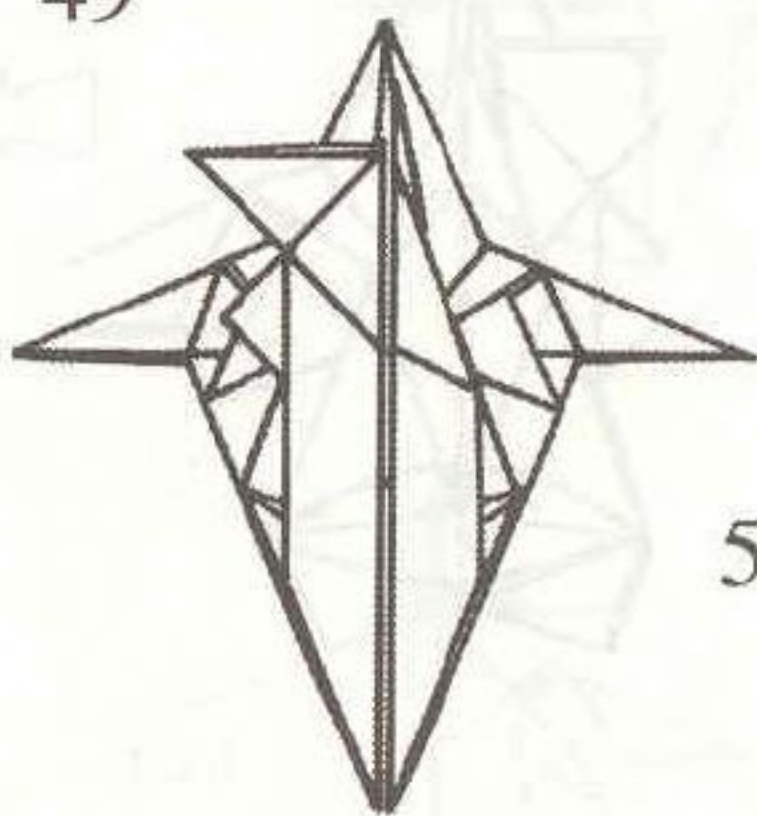
53



52

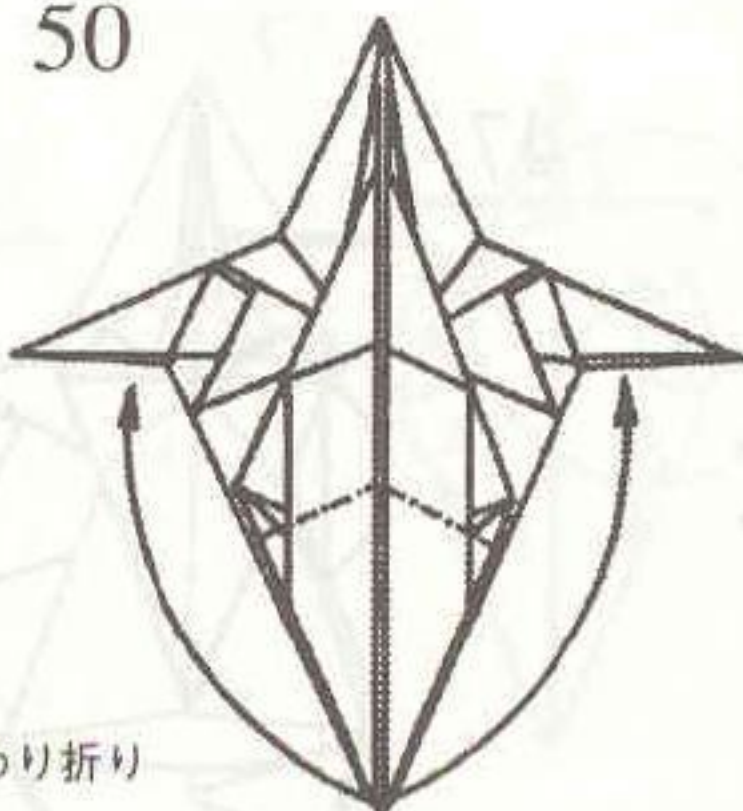


49



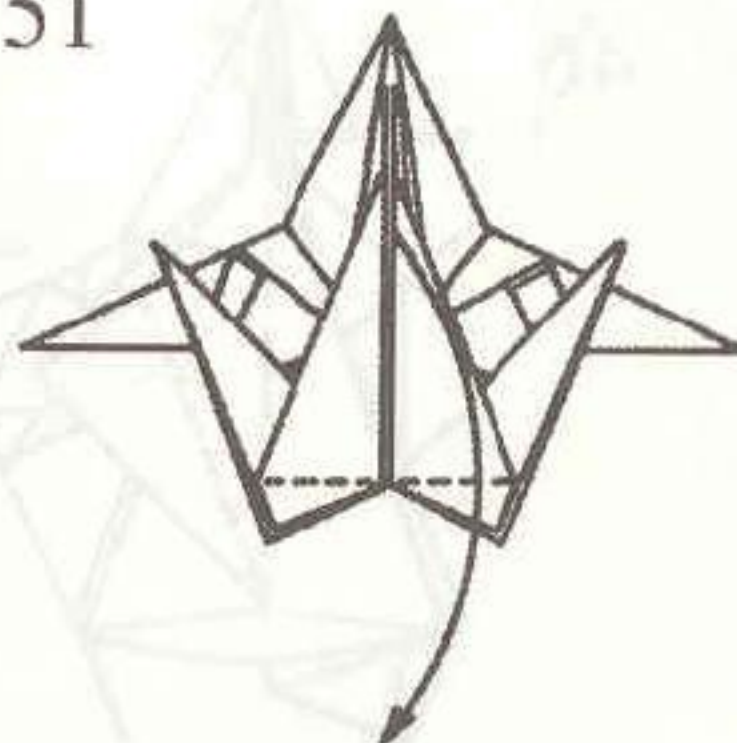
反対側も同様に折る
(38~48)

50

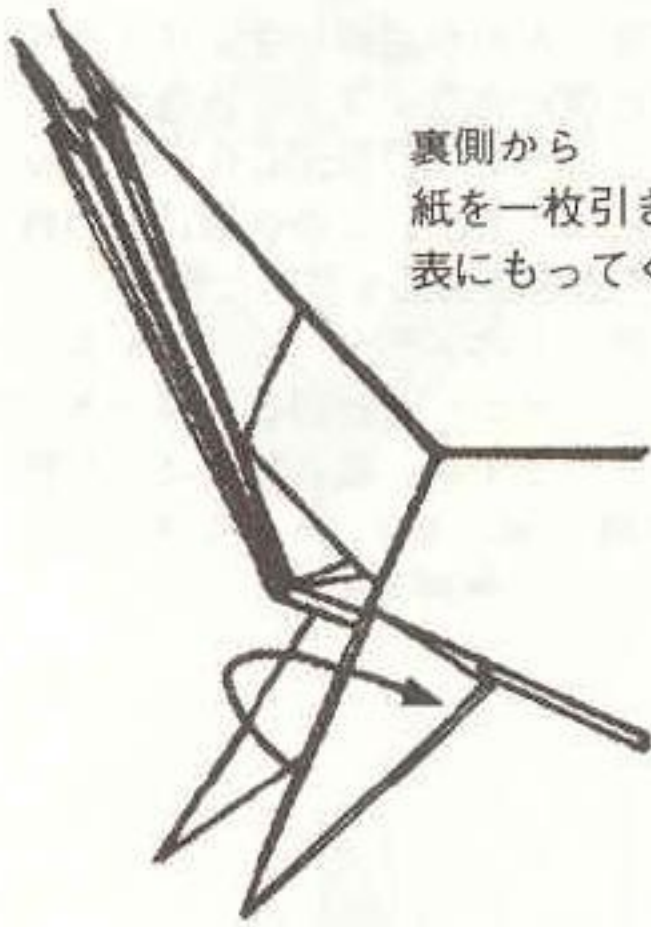


中わり折り

51

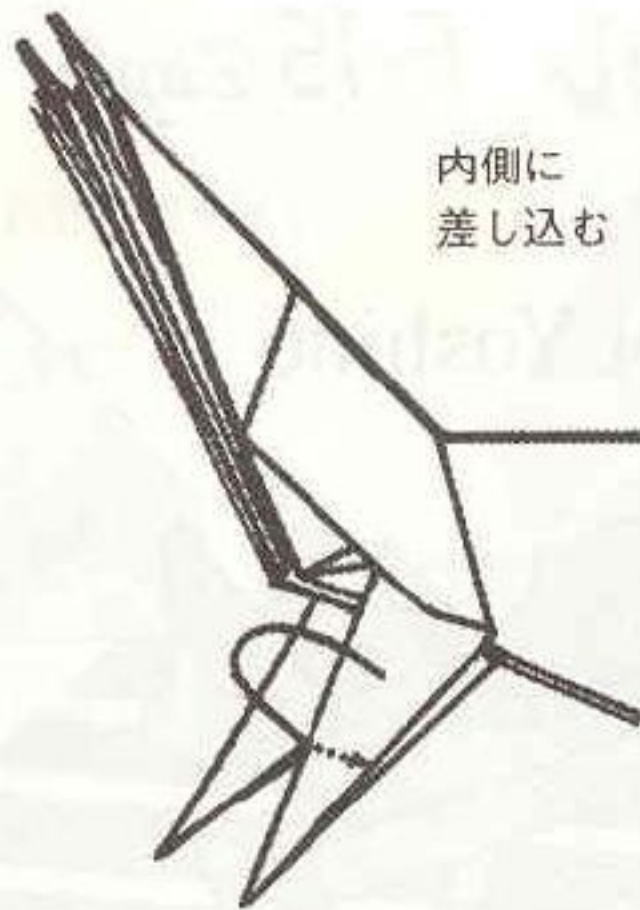


58



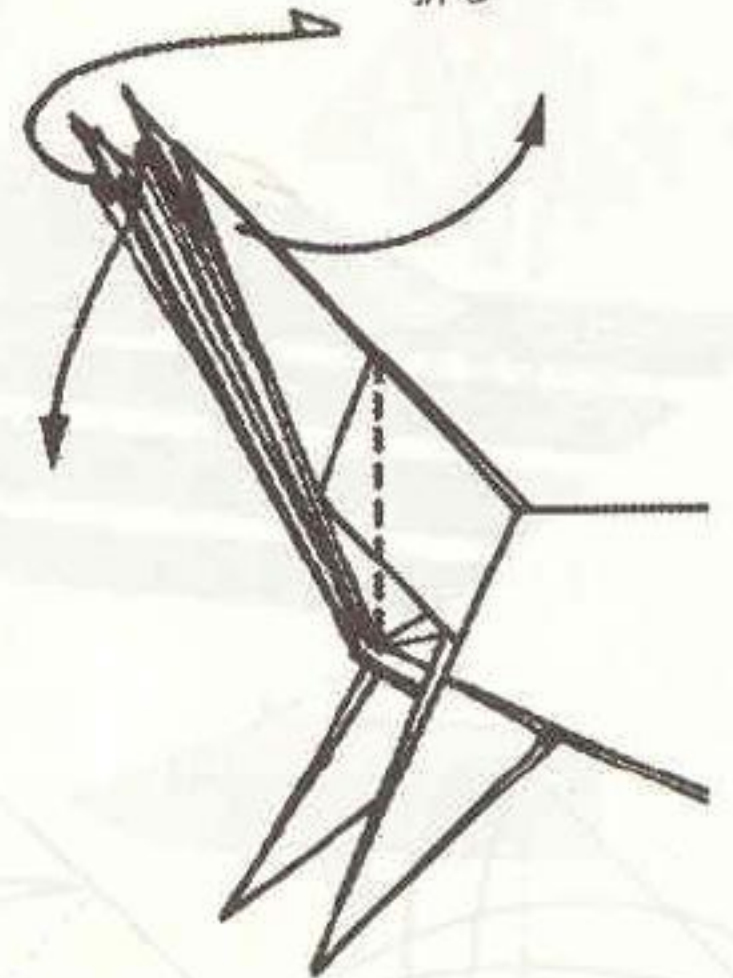
裏側から
紙を一枚引き出して
表にもってくる

59



内側に
差し込む

60



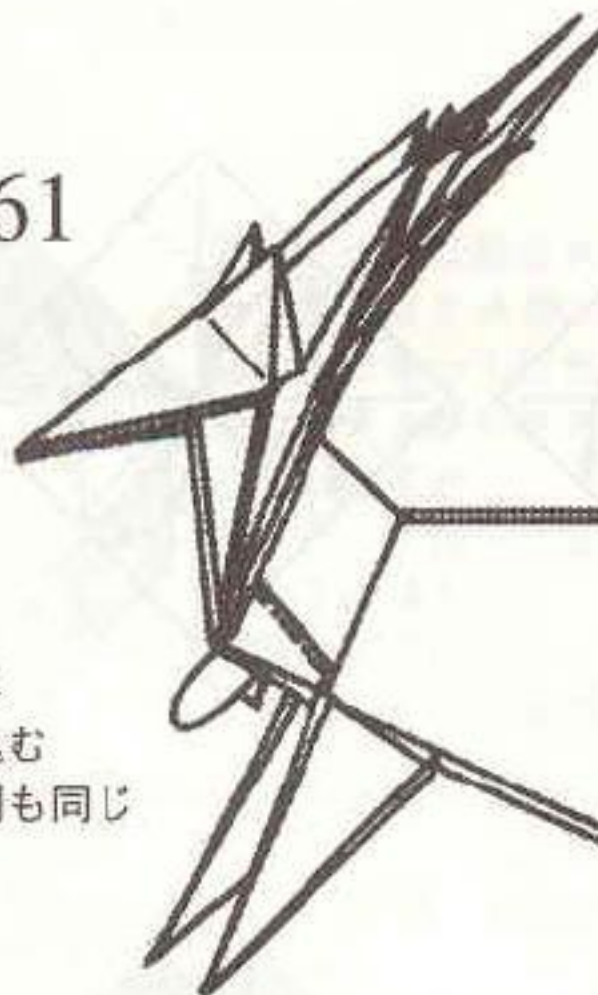
かぶせるように
折る

62



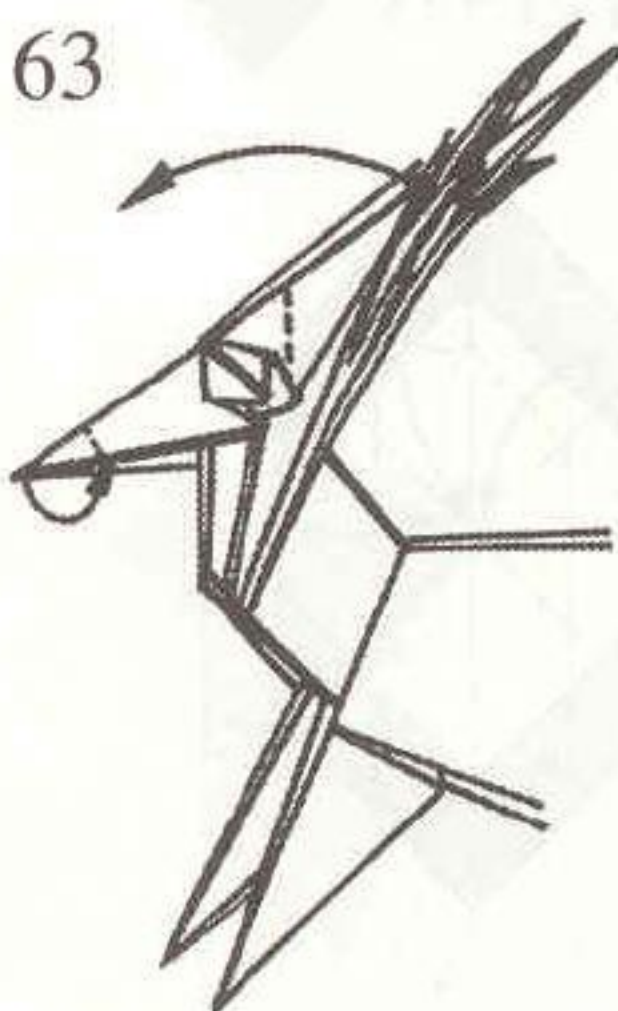
反対側も同じ

61

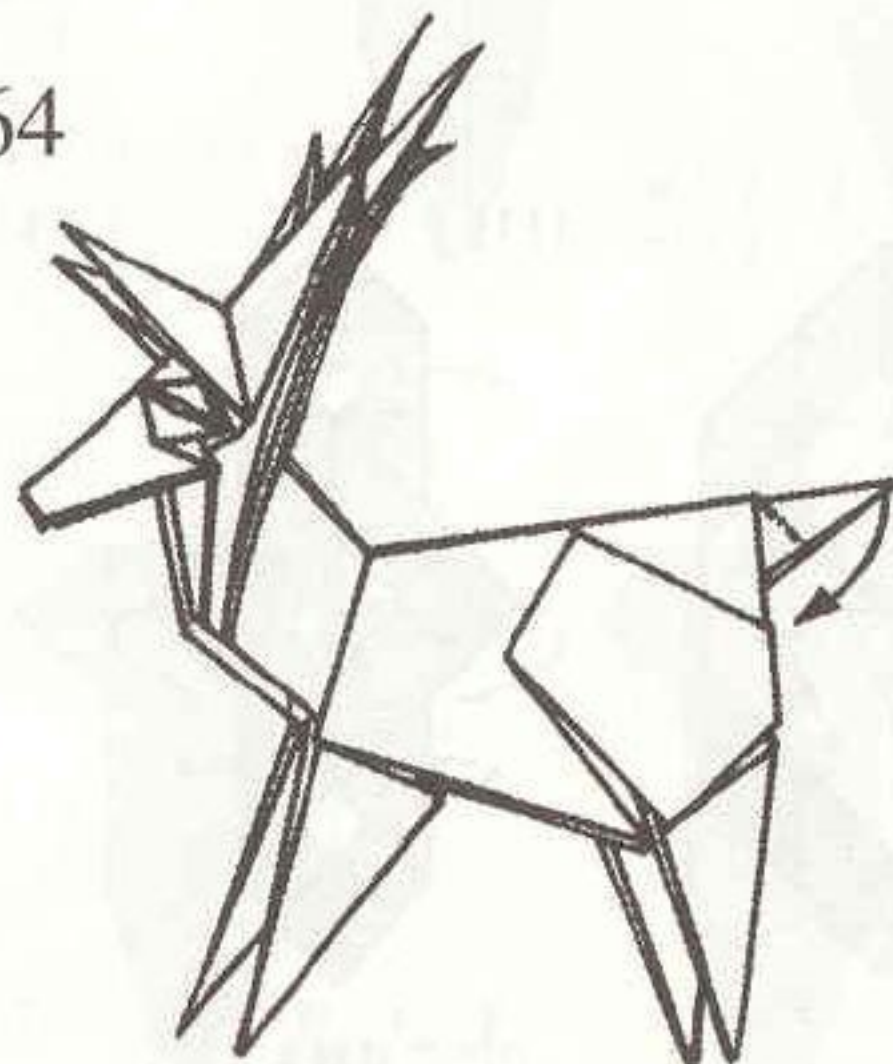


内側に
折り込む
反対側も同じ

63



64

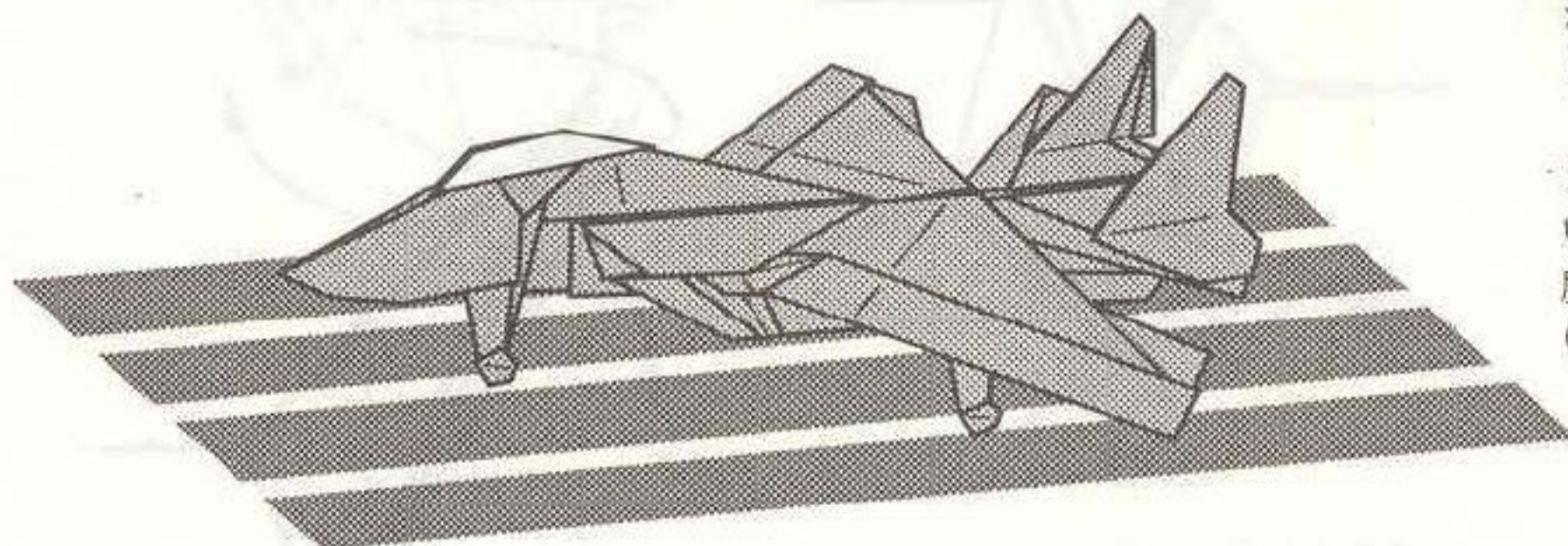


65 できあがり

F-15 イーグル F-15 Eagle

第1回 (3回連載)

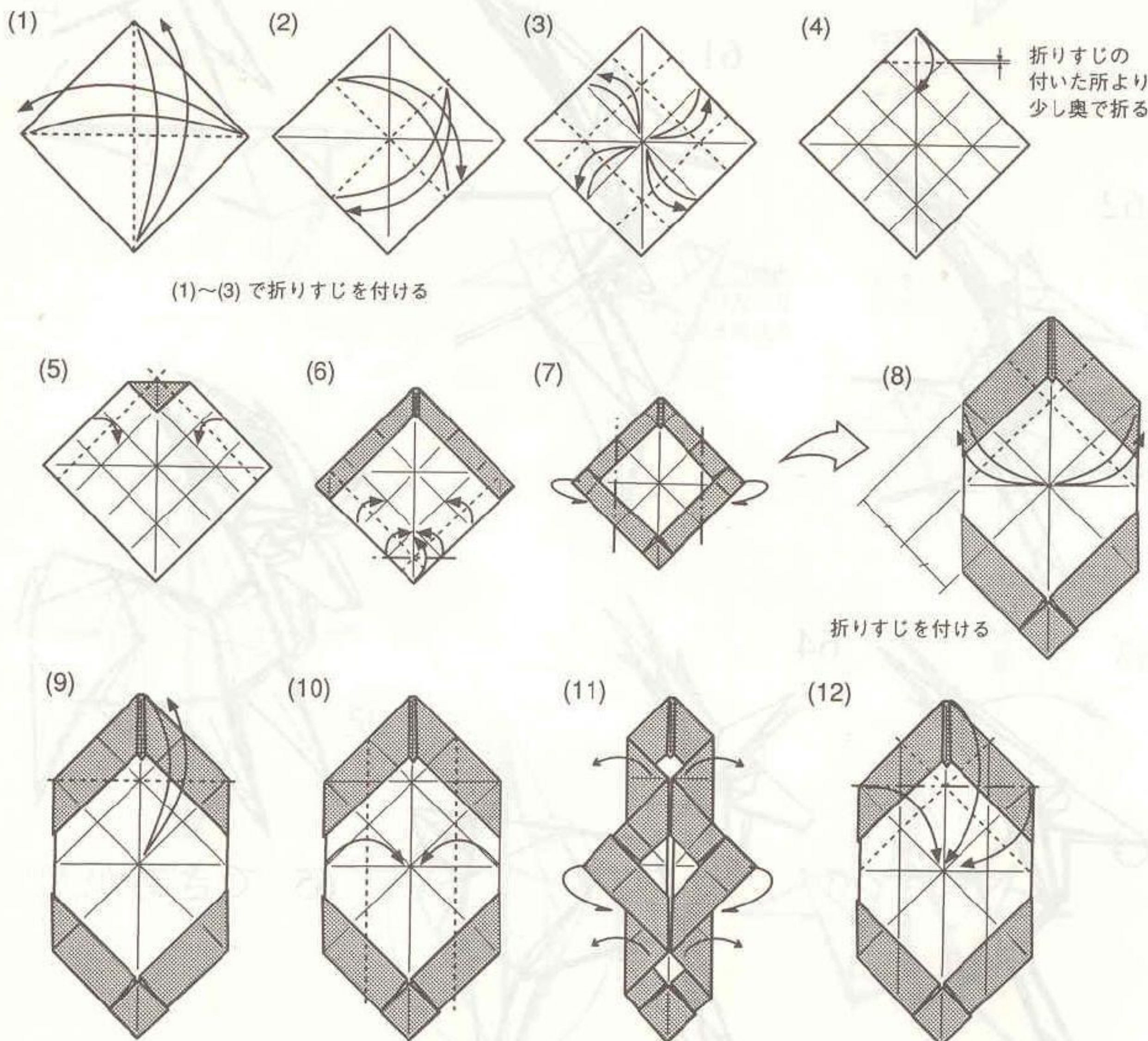
吉野一生 Issei Yoshino



アメリカ、日本、イスラエルの主力戦闘機マクダネルダグラス F-15 イーグルです。

吉野さんの作品群の中には十数作の飛行機がありますが、残念ながらコンピュータでの折図にはしていませんでした。この折図は彼の残した手書きの折図を写した物です。

吉野さんのグラデーションを多用したコンピュータ折図は世界一美しいと思いますが、私の腕ではこの程度が精一杯。申し訳ありません。(トレース：木村良寿)

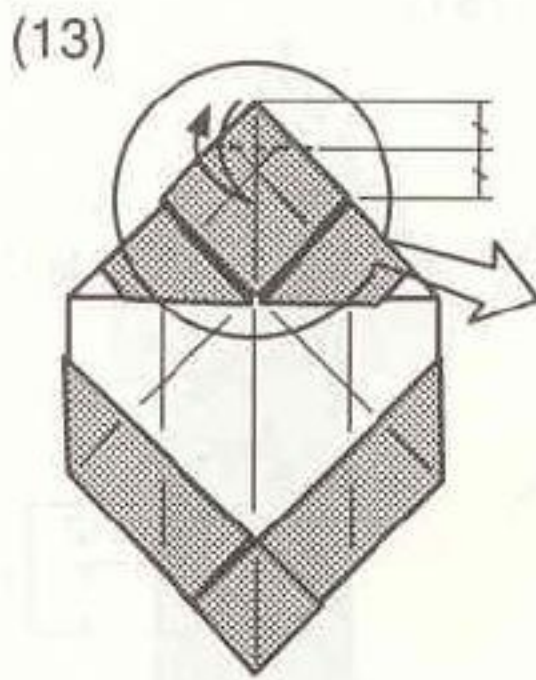


(1)~(3) で折りすじを付ける

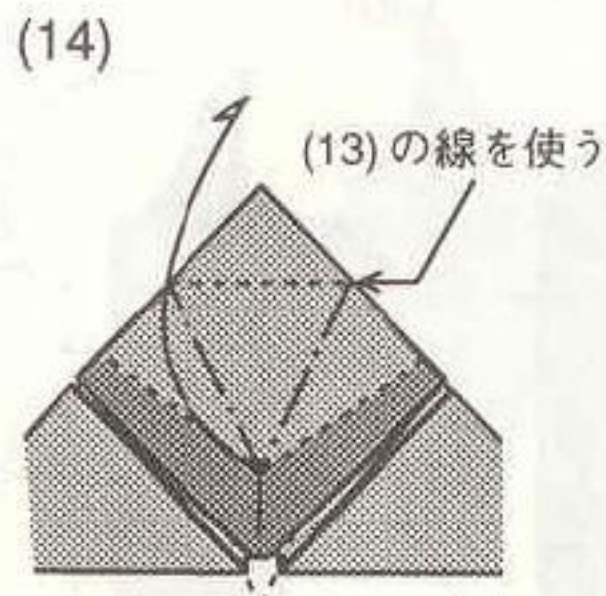
折りすじを付ける

折りすじを付ける

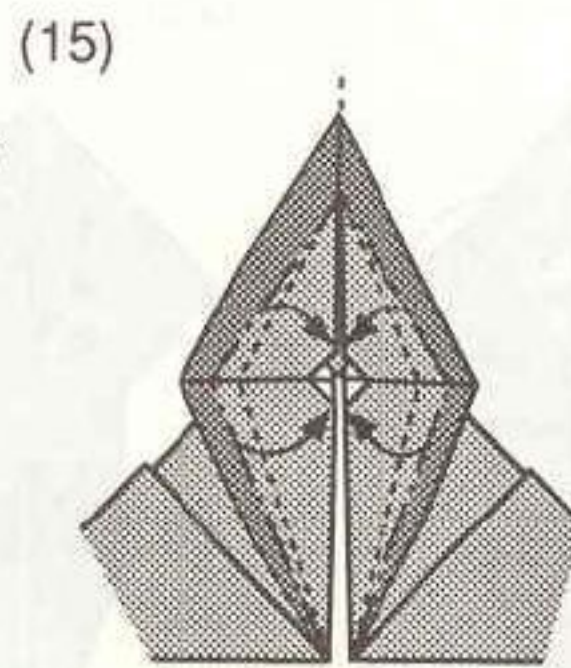
(10) の状態まで開く



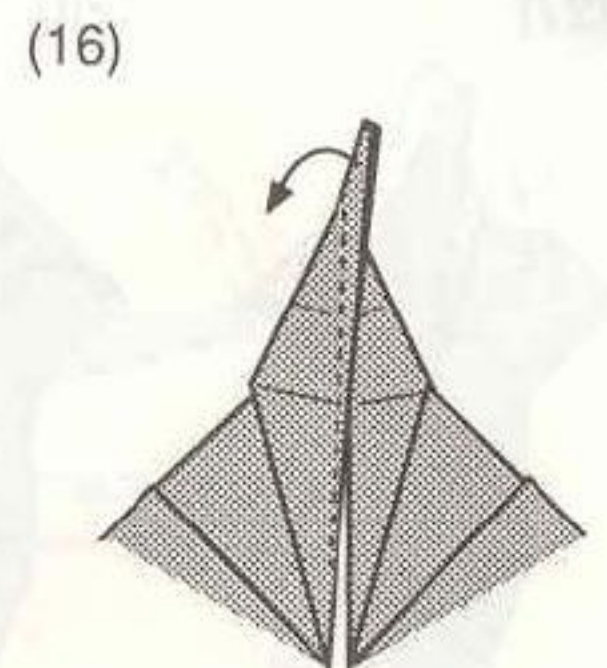
折りすじを付ける



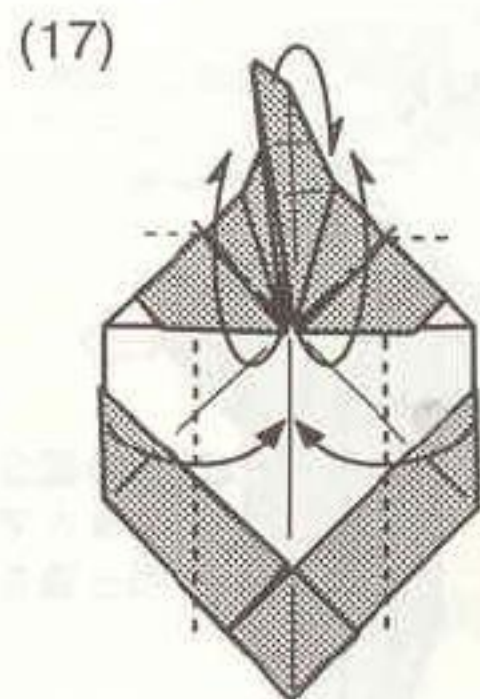
●を除いた部分で
鶴折りをする
●の部分は直角に
立てる



途中経過

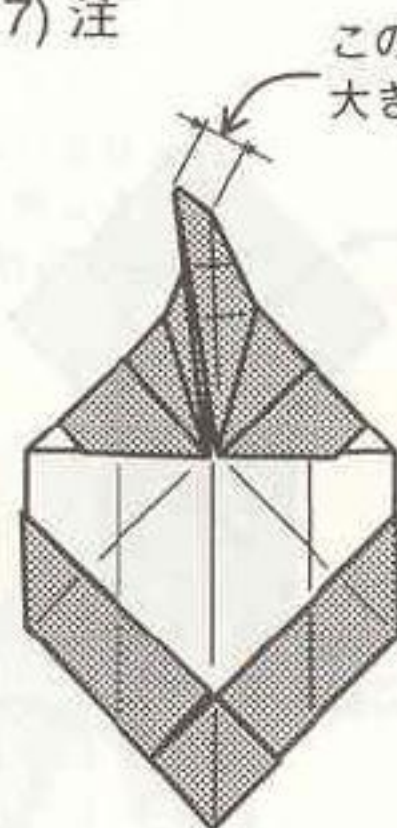


立てた部分を倒す



注を参照

(17) 注



この寸法が
大き過ぎないこと

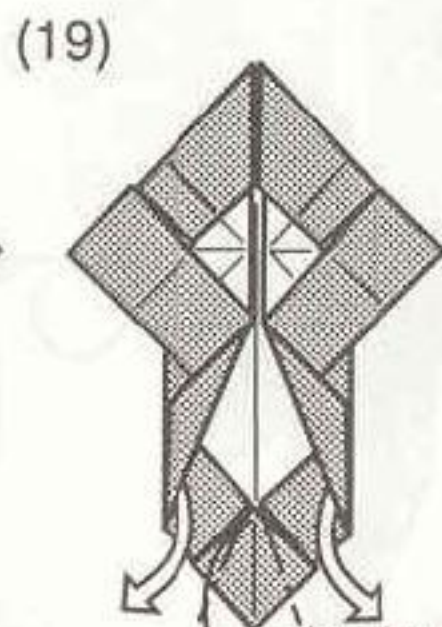
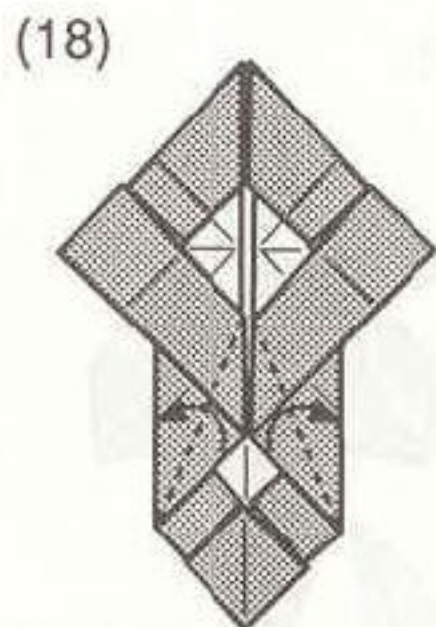
矢印で示した部分が
大き過ぎるとAの
図のようになってしま
うもし出来上がりがA
のようになるか
コクビット部がうまく
できない場合は
左図の矢印の部分が
大き過ぎるのが原因

A
X

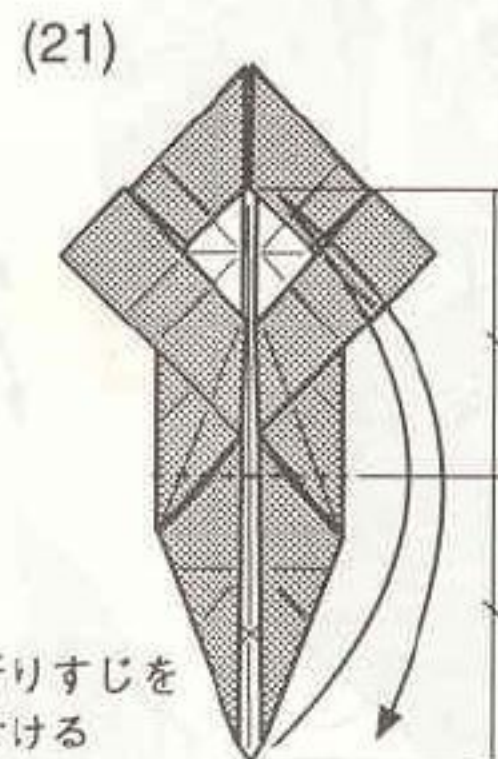
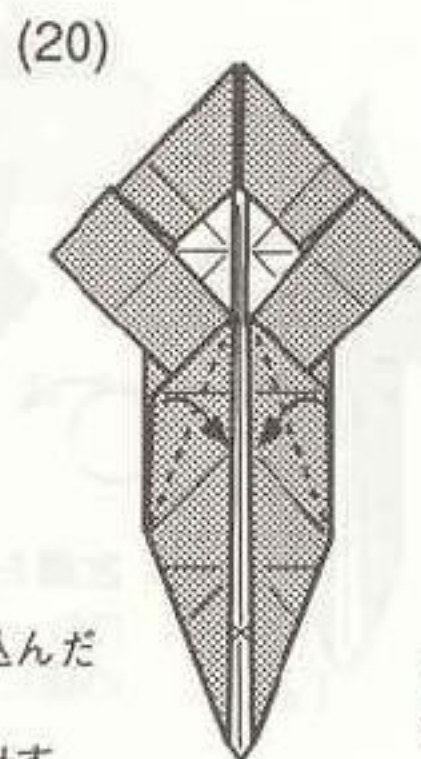
この境目にうまく角度がでない

B
O

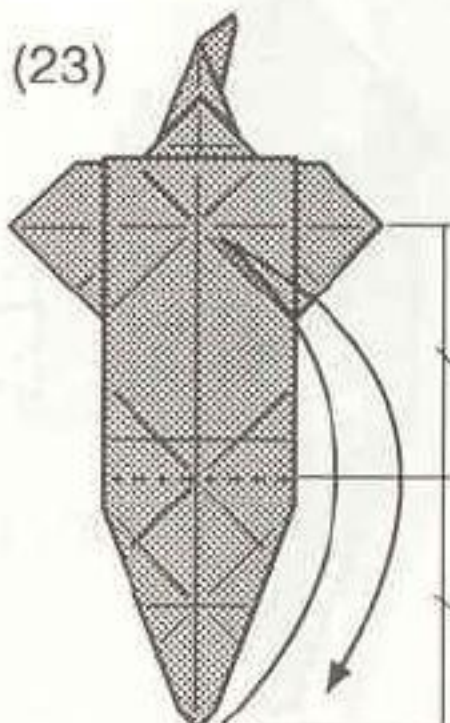
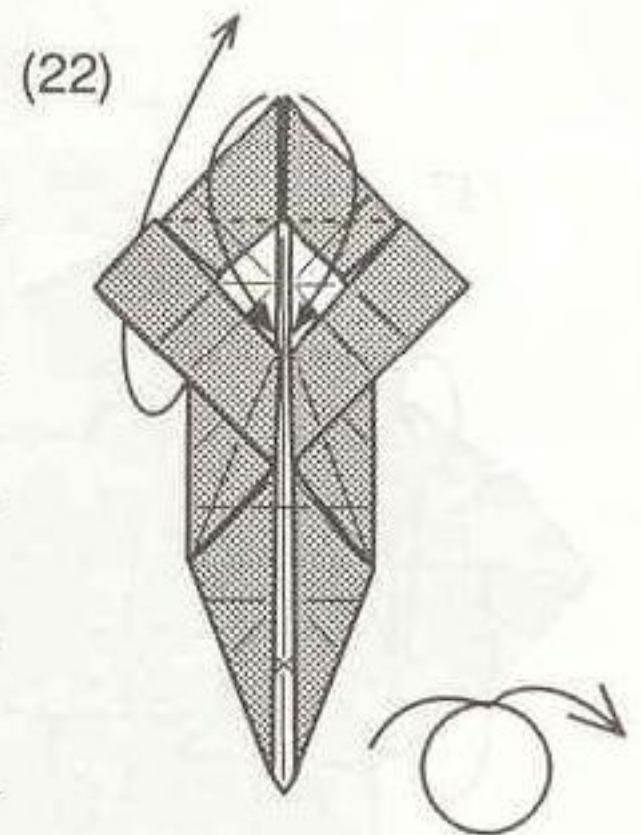
コクビット



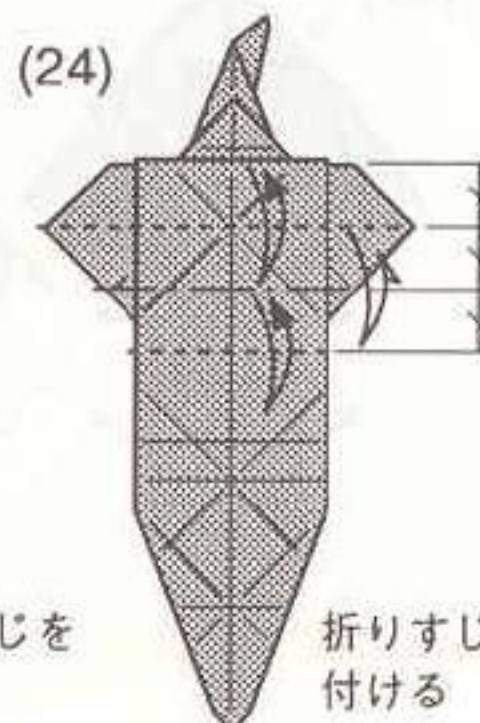
中に折り込んだ
部分を
引っ張り出す



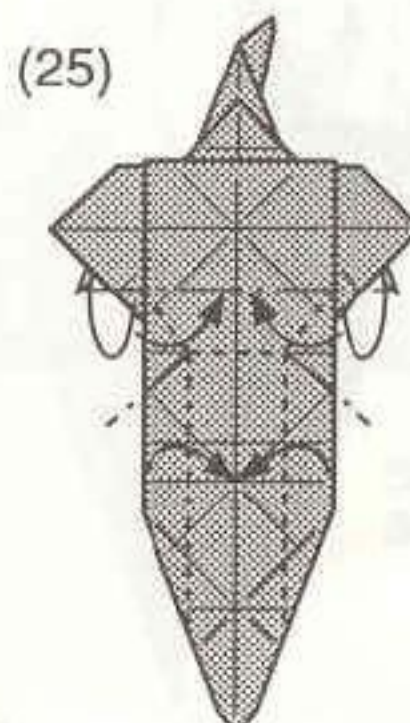
折りすじを
付ける



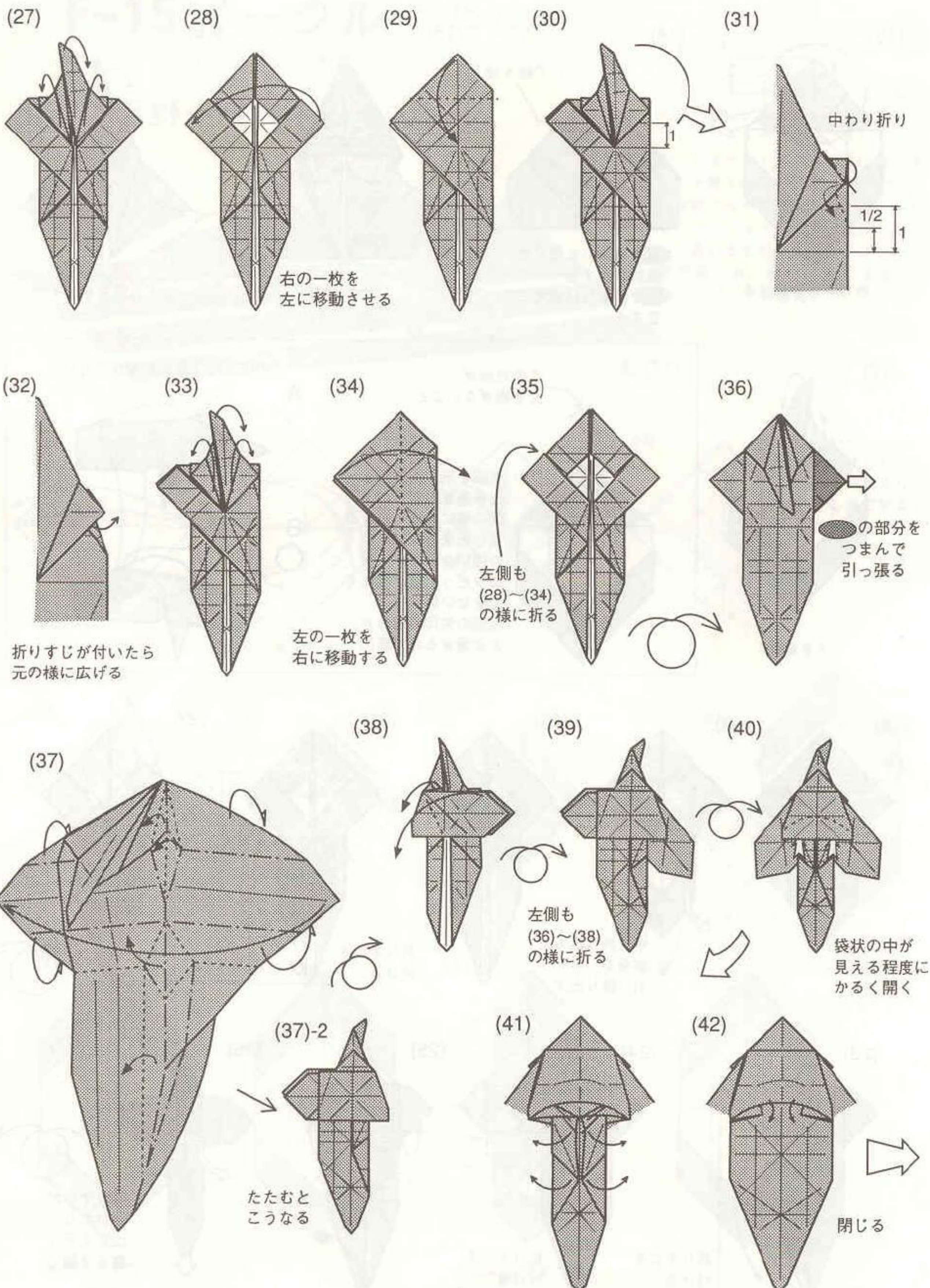
折りすじを
付ける



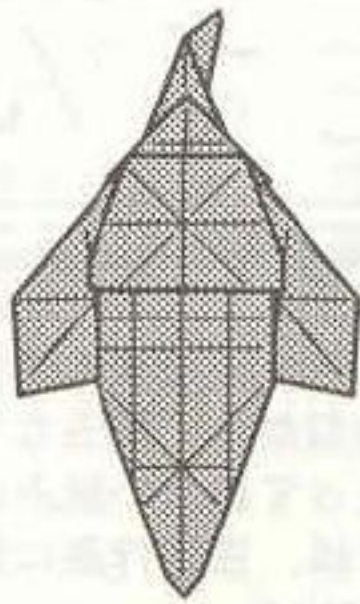
折りすじを
付ける



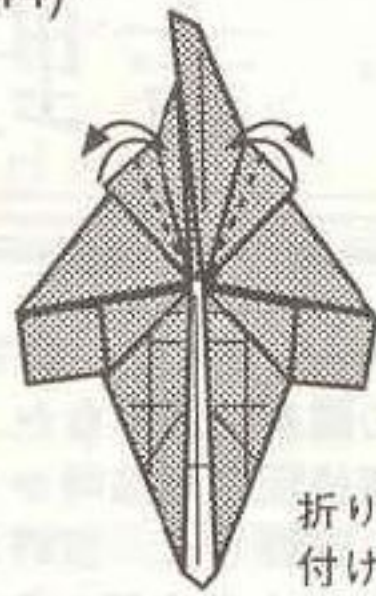
折りすじが
付いたら
(25)を行う
前まで開く



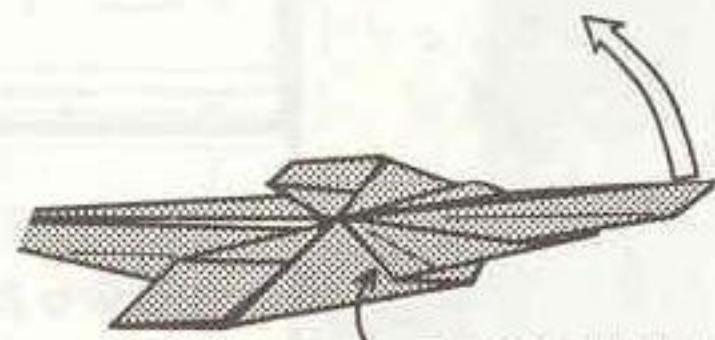
(43)



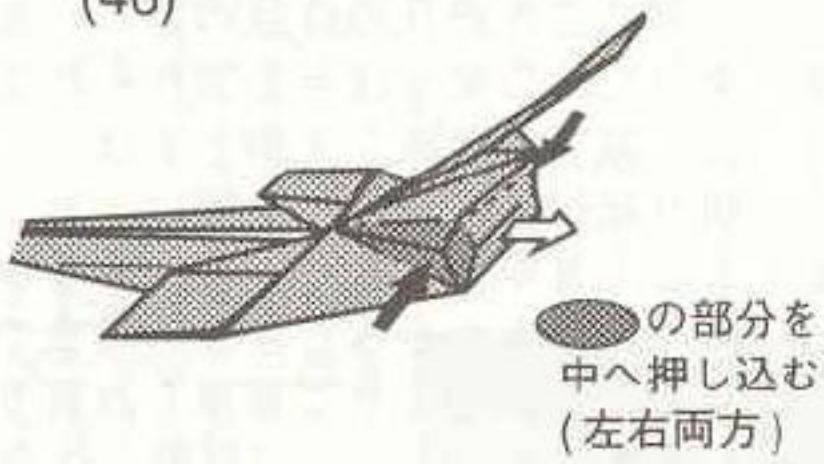
(44)



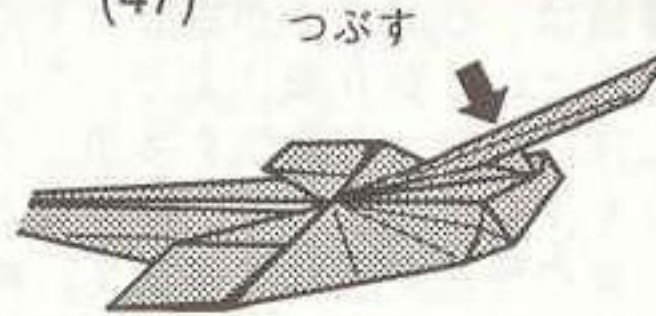
(45)



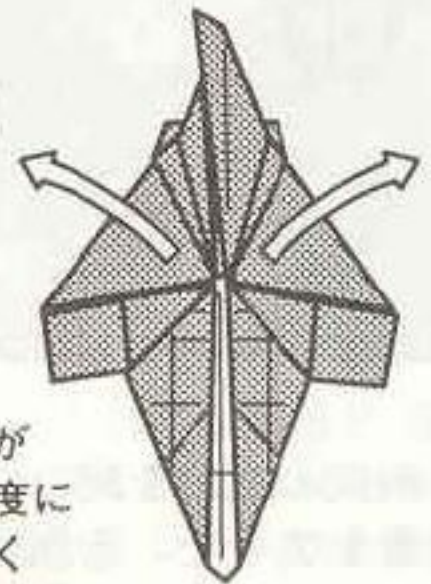
(46)



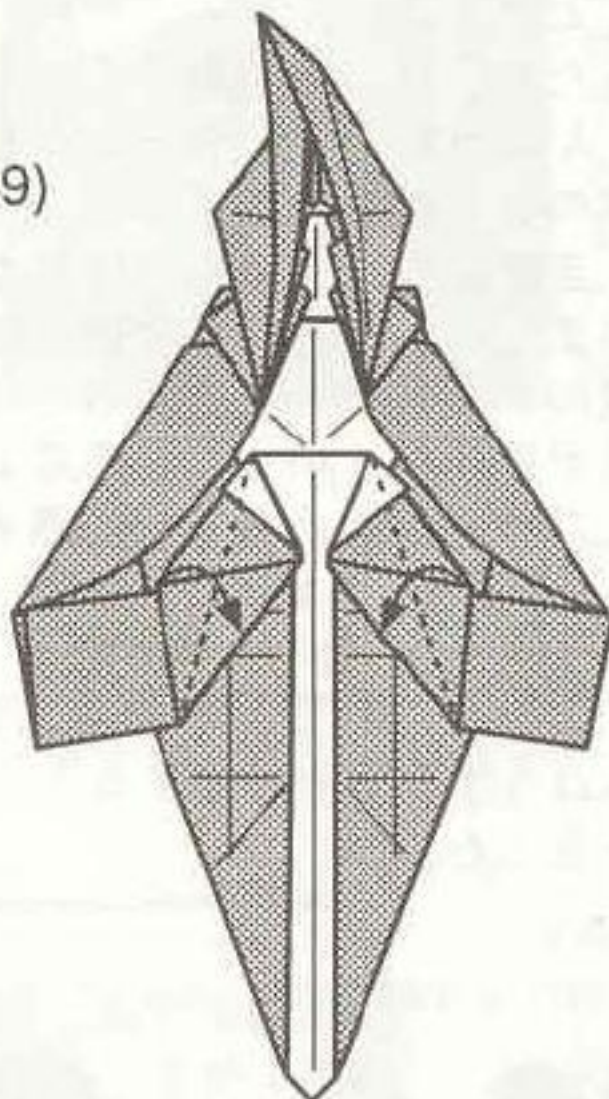
(47)



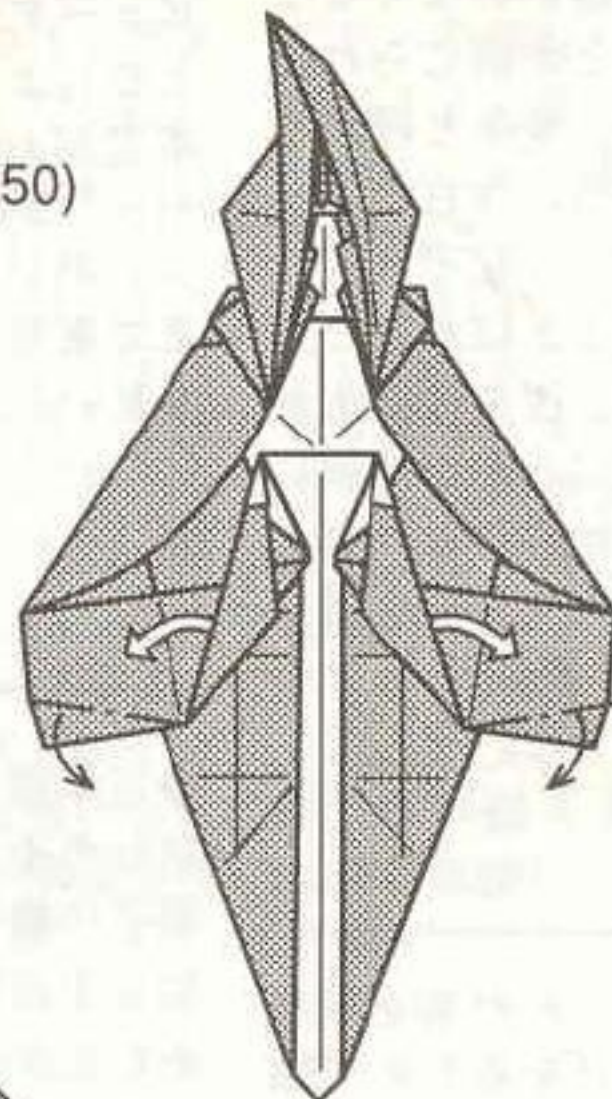
(48)



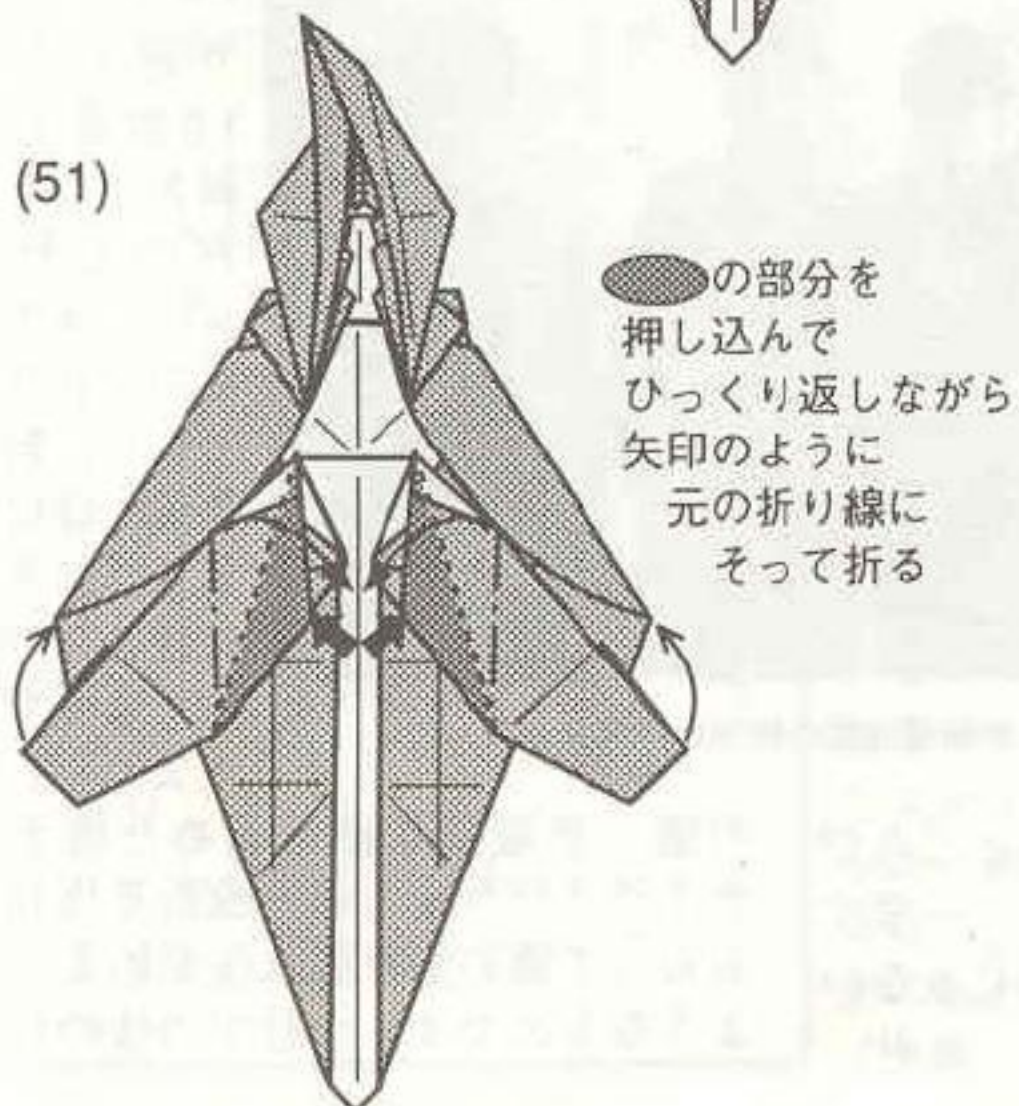
(49)



(50)



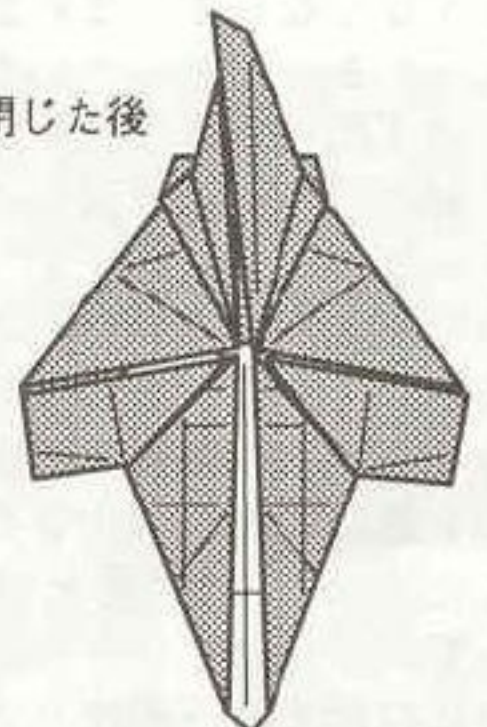
(51)



(52)



閉じた後



以下次号



追悼・吉野一生さん

8月11日朝、吉野一生さんは、ご家族に見守られながら、永遠に還らぬひととなった。癌との闘病生活のなか、32才の誕生日をむかえて間もなくのことであった。折紙探偵団発足当時から、常に先頭にたって新しい試みにチャレンジし続けていた吉野さん。吉野さん逝去の知らせに、吉野作品に魅了された多くのファンが、大きな悲しみにうちひしがれている。

◆彼の病気のことを聞いたのは半年前。言葉を失った。告別式に出て、四十九日をむかえた今になっても、わたしたちの前から彼がいなくなってしまったということが信じられない。彼の才能や人柄、晩年と呼ぶことになってしまったつい昨日のエピソード。それらをここに記そうとしても、言葉は堰に溜まるばかりで外にでてきてくれない。彼の作品集が近く出版される。山口さんが生前に間に合えばと編集を始めたものだ。彼はこれからも新しいファンを増やしていく現役の折り紙作家なのだ。彼はまだ生きている。そして、これからもずっと生き続けるだろう。(前川 淳)

◆吉野さんが亡くなられた事を本当に悲しく思います。「をる」にて知りましたが、子供(小5男子)は数分動かなくなっていました。その後「をる」に載っていた吉野さんのアノ「馬」を静かに折っていました。男の子達が折り紙へのめり込むステップの一つに「ティラノサウルスの骨格」等、吉野さんの作品が多くあるように思います。

折り紙にあこがれる子供達に、折り図を通してどれ程大きな夢を与えてくださっていたかを吉野さんは知っていらしたのでしょうか。

お礼の伝えようがありません。天国の吉野さんに、心からありがとうございました。

(矢野 真弓(真楠郁の母))

◆彼は、作品こそが雄弁にその人を語るという折り紙作家でした。繊細な作品設計、立体図を多用したわかりやすい折り図など、様々なところに彼の性格が現れています。折り紙以外にも、フルマラソンを完走したりと、自分に課した目標を着実にこなしました。吉野君が折紙探偵団に残してくれた、功績のひとつはコンピューターで折り図を描くということでしょう。彼がいなかったら、日本でMacで折り図を描く人はいなかったかもしれない。昨年折り紙シンポジウムの帰りに、吉野君の車で東京まで送ってもらいました。お互いハードボイルド小説のファンだということがわかり、話が盛り上がった。もっともっと話したかった。(高井 弘明)

◆三年前はじめておりがみはうすを訪れたその日に吉野さんと会った。

調子に乗った世間

知らずの若造にもあたたかく声をかけてくれた。この人があの馬の作者…。やたらと暑がりやで汗っかきの吉野さん。「枯れてくるといい作品ができる」と冗談混じりに言っていた吉野さん。いつも平然としてとんでもない作品をもっ

てきた。吉野さんの作品のところだけ空気の色が違っていた。…早すぎる。あまりにも早すぎるじゃないか。(北條 高史)

初めて吉野氏の作品の美しい造形を見た時の驚きは今も忘れられません。誠実で温厚な人柄とすばらしい折り紙作品を思い出す度に、もっともっと長生きされているいろいろな事を教えて頂きたかったと思ひ残念でなりません。心よりご冥福をお祈り致します。(目黒 俊幸)

◆吉野君よ。もういつでも心の中で話し合える存在になってしまった吉野君よ。ゆうべも「馬」を折りながら話したけれど、あのたてがみから鼻先までには興奮させられてしまった。充実した時間の中を駆け抜けていった吉野君よ。我々も無念だ。たまらない。君の2倍近くも生きてしまった私など、それだけでも君に顔向けが出来ない気持ちだ。秋が来て、町で君に似た青年を見かけてハッとすることが多くなった。

(岡村 昌夫)



折紙探偵団の仲間とのスナップ

◆僕が彼とのつきあいを振り返ると、10数年も前新人としてうちの会社に入ってきてからの付き合いでした。数年後僕の課に配属されてさらに付き合いが深くなっていました。こ

の頃、恐竜折り紙を始めた彼からティラノサウルスの一枚折り作品をもらって僕の折り紙人生が始まったようなものです。会社での彼の仕事

ぶりは、一切の妥協をせず、自分が納得するまで決して手をゆるめようとしない頑なさを持っていてよく意見が合わずにおつかったりしましたが、勤務時間後は立場が逆転して折り紙の師匠と弟子の関係でいろいろな技術を教えてもらったりしました。彼は、自分の折り図がはたして一般の人にも簡単に折れるような書き方であるのかどう

かを調べる為に、僕に折り図を渡してよくテストをしていました。こんな所にも彼の優しさと折り図に対する彼の考え方が出ていました。これからは、沢山色々なことを教えてもらいたかったし、一緒に仕事や遊びをしていきたいのですが本当に残念で残念で仕方ありません。49日の法要の日、台風の過ぎた空に大きな虹が架かっていました。

虹を越へ匠の神に
召されし日

遠き天上（そら）
に君を偲ばむ。

心よりご冥福をお
祈りいたします。

（於保 竹彦）



ゲームソフトのパッケージ
用に制作された人物造形。

吉野一生（よしの いっせい）さん

●1964年埼玉県生まれ。中学の頃より創作を始める。1989年に「ギャラリーおりがみはうす」において開いた「恐竜おりがみ三人展」での出展作「ティラノサウルス全身骨格」は吉野さんの名前を大きく世界に知らしめた。飛行機、バイク、恐竜など精巧で妥協のない作品群は世界中に多くのファンをもつ。また、コンピュータを使った折り図制作にもいち早く取り組んだ。立体図やグラデーションを駆使した折り図は、誇張無く世界一美しかった。著書に「ティラノサウルス全身骨格」（おりがみはうす版・カナダ版）がある。近日、「一生・スーパーコンプレックスおりがみ」（おりがみはうすガレッジブックシリーズ）が刊行される。

◆私がはじめて吉野さんに会ったのは、はじめて「おりがみはうす」に遊びに行ったときのことです。私にとって「折紙作家」の第一印象は吉野さんの温かい人柄であり、私はこのことを幸せに感じています。吉野さんの人柄は作品にも表れています。作品を見れば、吉野さんの対象に対する愛情深いまなざしが感じら

永遠に残る吉野作品

れ、作品を折れば、吉野さんが、いかに多くの時間を紙とともに過ごしたかと思えます。あのすばらしい作品の数々はいつまでも折り継がれてゆくことでしょう。

（羽鳥 公士郎）

◆私が探偵団に入る決断をさせたのは吉野さんの「トリケラトプス全身骨格」だった。去年の夏、初めておりがみはうすへ行ったときのことだった。「をる」を見てはうすと探偵団の存在を知り、「ティラノサウルス全身骨格」を買いに行ったとき、「トリケラトプス全身骨格」をみた。聞いてみると「折り図はまだ発表されていないが作者は持ってると思いますよ」との答え。これは欲しい！そうだ、探偵団に入ってお友達になって折り図をもらおう！私が探偵団に入る決断をさせたのは吉野さんの「トリケラトプス全身骨格」だった。今度会うときまでに新作をたくさん創作していて欲しいものです。やすらかに。

（渡辺 明広）

◆吉野さんの勤務先と同じグループ企業の方に勤めていたので、吉野さんの上司と知合いだったためか、探偵団に入ってから今年で4年しかたっていないのにそれ以前から友人であったような気がする。わずかな年月なのに色々なことが思い出される。映画会社の知人がゲームのパッケージに折紙

を使いたいというので吉野さんを紹介しキャラクターをいくつか折ってもらったこと。BOSのコンベンションに吉野さん他8名で参加、イギリス珍道中になってしまったこと。個人的に折り紙をお願いしたくて資料を揃えて見せたところキャタピラとドームが折紙として折るのが面白いというので選んでもらったもの

が、結局折ってもらえなかったこと。これらのことは一生忘れられない思い出になって

いる。吉野さんの御冥福をお祈りします。

（隅谷 和夫）

◆溢れるアイデアと芸術的造形において、彼は最も独自の世界を確立していた折紙作家の一人であった。常に良き目標であり、また良き友人であり、良き理解者であった。一緒に行った旅行のことや、折紙製作に夜遅くまで共に汗を流した懐かしい日々のことが楽しく思い出されて、今でもまだ夜中に電話をくれるんじゃないかという錯覚に陥る。夢半ばにして永久の眠りについた彼のことを思うと本当に残念でならない。今後は彼の夢を引き継ぎ折紙の発展に尽くして行くことが残された我々の役目であると思う。

（川畑 文昭）

◇折紙探偵団では、「吉野一生さんを偲ぶ会」を予定しています。日程詳細は、追ってお知らせいたしますが、皆さんで吉野作品を共同製作したり、吉野さんの残された作品の展示会などを考えています。



1994年、第二回折紙の科学国際会議でのスナッフ。
吉野さん（中央）、グーベルジャンさん（左）と川畑さんと

Rabbit Ear

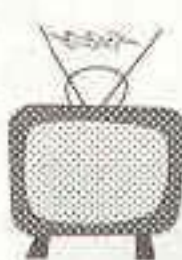
つまみおり



見事栄冠を勝ち取った北條さん。作品「最終決戦?」の前でポーズ。



去る9月19日、テレビ東京系列の人気番組「TVチャンピオン」で、「第2回折紙王選手権」が放映されました。前回優勝の西川誠司さんは引っ越しによる多忙のため欠場。今回は、田中稔憲さん、北條高史さん、本位田那穂美さん、宮島登さん、山梨雅弘さんが出場しました。



第1ラウンド

和泉町幼稚園

1回戦は「しりとり折紙」。折紙→水鳥→りす→スリッパ→パンツ→椿…と進行しますが、実はここまではいわゆる「やらせ」。早々終わってしまうのを危惧したスタッフの人たちが、せめて一巡はするようにと事前に打ち合わせをしていたのです。

ところが、いざ始まってみると2時間以上に及ぶ大激闘。なかには「七(しち)」「陸」などフツオの人には想像もつかない作品が折られたりして、折紙の世界の豊穡さの一部が紹介されたりしました。1回戦は宮島さんがトップ。



2回戦は「重ね箱勝負」。制限時間以内にたくさん箱を重ねた人の勝ち。これはやはり、誰もが想像した通り、本位田さんの圧勝!

この後はお昼休みですが、しりと

りをやりすぎた影響で時間がたったの15分!



3回戦は「実物大勝負」。クジラか恐竜だったら「ギネスに挑戦・ネス湖に巨大折紙を見た!」になってしまうところでしたが、反対に課題は「アリ」。

第2回 TVチャンピオン 折紙王選手権

こぼれはなく

宮島さんと山梨さん

は一枚折りに挑戦。だれもが一枚折りで来るだろうと予想していた北條さんは、な、なんと掟やぶりの複合形!しかも4枚!!!!昆虫の専門家でもある彼は、あくまで完成形(勝負?)にこだわって、見事にトップ。

宮島さんは努力が報われずに最下位。審査員の講評は「ヤゴだったら一番なんですが…」。



TV放映では、これで第1ラウンドの決着が付きまして。しかし実は、

幻の「勝負」があったのです。

4回戦は「目隠し折紙早折り勝負」。折り鶴と蛙を手元を見ずにいかに早く、正確に折れるか(羽鳥さんの無念の顔が浮かびます。何で第1回TVチャンピオンにこの勝負がなかったんだ!)

北條さんがそれぞれ一番早く折るのですが、紙が切れてしまったりして、残念ながら最下位。トップは本位田さんでした。



第2ラウンド

スタジオ「BALL ROOM」

第2ラウンドの前に、実はもうひとつ幻の勝負があったのです。

4回戦が終わった時点で田中さん、山梨さんの2人が同点4位で並び、同点決勝は「紙飛行機勝負」。これに負けた田中さんが脱落。



それからセッティングをして、第2ラウンド「ユニット折紙勝負」が始まったのは夜の10時過ぎ!ユニット折紙で高さ2mのタワーを早く建てた人の勝ち。

本位田さんは事前はかなり研究をしていたそうで、すさまじいまでの要領のよさで1抜け。北條さんは細いタワーを気合いで建てさせて2抜け。

この時点で試合開始から5時間が経過。宮島さんは自分の作戦ミスを悟り、敗戦の弁を考えつつ闇雲にユニットを折り続けます。対する山梨さんの方は、建てては倒れるの繰り返しで、まさに「シシュフォスの岩」状態。

結局、業を煮やした(?)スタッフの人たちの提案で、15分で高く積んだ



決勝ラウンド・本位田さんの作品
「未来への船出」

方が勝ちという特別ルールで戦うことに。で、山梨さんの勝ち。時刻は朝の5時半!!

決勝ラウンド

金程中学校体育館
決勝ラウンドは日を改めて、5m四方の紙を使ったジオラマ勝負。北條さんには川上さん、本位田さんには初音さん、山梨さんには近江さん、とそれぞれ助手がついて、さっそく大きな紙にとりかかります。

山梨・近江組はもちろん恐竜。しかし今回ははさみを使ってはいけないというので、得意技の「ゾルの基本形」が封じられてしまいました。山梨さん危うし!

木槌を使ったりお尻を使ったり、折るのも大変ですが、作品を立たせるのもまた大変。山梨さんは中につめる新聞紙を忘れたのでスリッパまで動員して、なんとかうまく立たせました。その点本位田さんが「船」を選んだのはさすが…と思いきや、美

術さん総動員で、木の板を切ってドリルで穴を開けて針金を通してボンドで貼り付けて…と大騒ぎ。



主役ができた次は脇役。パーツがたくさん要る場合は助手が手伝ってもよいということなので、初音さんは控え室で十二支の動物を折ることにしました。するとそこには、助手を務めるつもりで来たのに失業してしまった羽鳥さんが暇を持て余していました。

そこで羽鳥さんも手伝って次々と動物を作っていると、競馬新聞をもった山口さん登場。「ヘビはこんなじゃなくてこう折ればいいのに…」と自作の「ヘビ」を披露。次に波を折ろうという段になって秘密兵器、加藤さんが到着。控え室は大賑わい。

そうこうしているうちに審査員の方々が到着。折紙界からは、折紙協合理事長の佐野さん、「をる」前編集長の石川さん、そしていわずと知れた山口さんが審査にあたります。審査

決勝ラウンド・山梨さんの作品
「やじうまがうるさくて」



の前にお食事でも…ということで(もう夕食時になっていたので)、控え室でお弁当を食べるときの話題はもちろん折紙…ではなくて、なんと痛風談議!



制限時間は10時間だったのですが、誰も終わりそうがないので時計にも休憩をあげて、できあがった作品は写真の通り力作ぞろい。審査の結果、北條さんが優勝の栄冠を勝ち取りました。

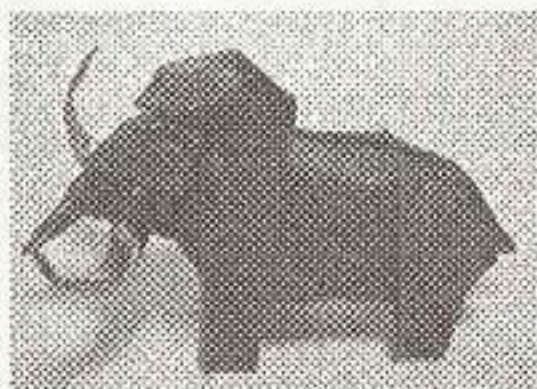
川畑文昭氏作品展

下記イベントの期間中、会場の一角に川畑文昭氏創作折紙が展示されます。ご興味のある方はぜひお出かけ下さい。



内容は マンモス、じゃこううし、バイソン、おおつのじか等、氷河期に生きた動物の不切一枚折りによる折りおろし作品14体。

詳細、問い合わせは下記を参考にしてください。



ーイベント案内ー

期間：1996年10月1日～
1997年1月5日
市政施行90周年記念特別企画展
「ロシアのマンモス」
豊橋市自然史博物館
豊橋市大岩町字大穴1-238
TEL 0532-41-4747
開館時間 午前9時～午後4時30分

ギャラリーおりがみはうす移転のご案内

おりがみはうすは10月中旬より現在の場所の向側、朝日マンションの2Fに移転します。移転後も下記のように作品展を開催していきますのでよろしくお願いいたします。

●新住所 文京区白山1-33-8-216

電話番号は変わりません。03-5684-6040です。

営業時間 10:00～18:00 定休日 日曜・祝日

移転リニューアル作品展案内

◎「ミニチュアおりがみ作品展」

10月28日(月)～11月22日(金)

○故長野耕平氏の提唱による11月11日のおりがみの日を記念した作品展。10cm立方以内に仕上げた折り紙作品を展示します。創作にこだわらず、個性ある演出で飾られた作品が展示され、優秀な作品には長野耕平賞がおくられます。



◎「クリスマス彩る」

11月25日(月)～

12月27日(金)

☆クリスマス作品募集

11月22日(金)ま

でおりがみはうすに

送ってください。特に

制限は設けません。ク

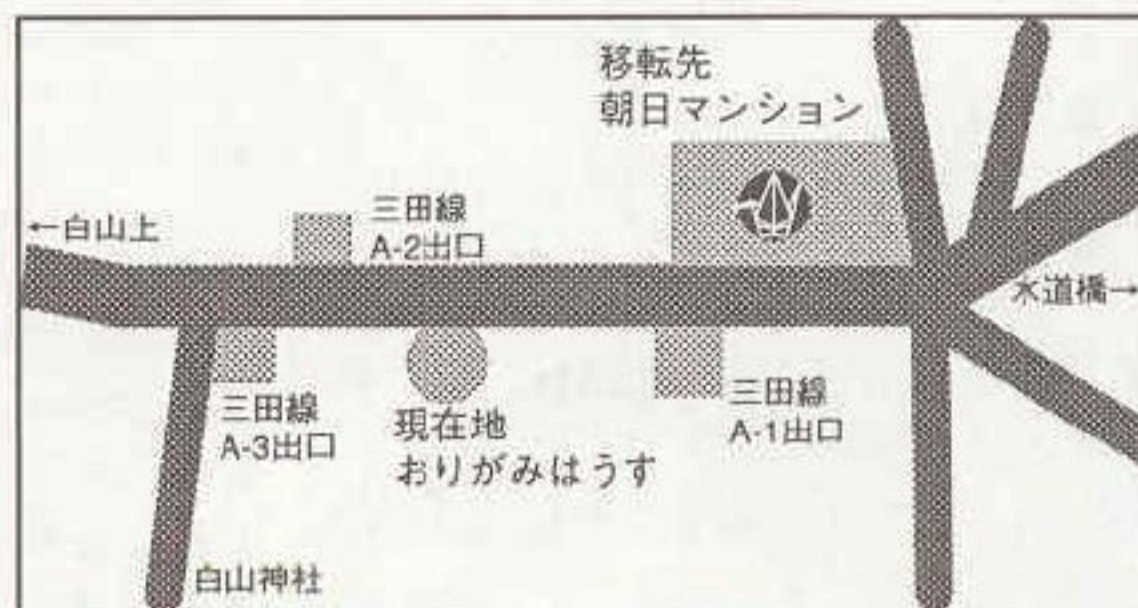
リスマスに関する作品ならば何でも結構です。



◎「布施知子作品展」

1月6日(月)～

○箱とユニットとでブームをおこした作者が本の撮影用として制作した作品をはじめ、まだ見せたことのない作品まで、数多くの作品が飾られます。



おりすじ

私の趣味

近江信一

さて、今日は折り紙で何かをやりましょうか。天気が悪くて映画の撮影（8ミリビデオの自主製作です。）も中止になっちゃったから。外にも遊びに行けないし。あっ、今度は、折り紙をモチーフにした映画も撮りたいな、早く次回作の台本を書かないと、「折り紙の夢」なんて面白そうだね。前に「奇術師の夢」という作品で、奇術師の役をやったけど（手品は少しだけ得意です。）折り紙は、だれに折ってもらおうか、かわいい女の子がいいかな。だれかやってくれるといいな。

とりあえず、何か折ってみよう。紙はどうしよう。昔、日本暗号協会から送られてくる暗号の紙は、中性紙だったっけ（高校生のころ、暗号の研究家になりたくて…）。あの紙なら百年間は紙がくずれないって何かに書いてあったな。暗号を書いた紙で折り紙をおって…って、そういうストーリーは、佐野洋だな（推理小説はとっても好きです）。インサイドアウトだとバレちゃうな。うーん。ダメだな。まあ、いいや。

さあ、出来た。竜です。この折り紙の竜がしゃべったり飛んだりしたら面白いな。（アメリカの腹話術師で竜のぬいぐるみを使う人がいるんです。腹話術師にもなりたかった。）女の子が折り紙を折っている。するとその折り紙が生き物の様に動き出す。（蝶の折り紙を空に浮かすのは簡単なんだよな。手品でね）うーん。撮り方によっては、幻想的にもなるし危なくもなるな。さて、それからどうしよう。実は、その折り紙の紙は、親友からもらった手紙で、悲しみの中にいる女の子をはげまして窓から飛んでいってしまう。これでどうかな？うんうん、約3分こんな所かな。じゃあ、とりあえずこの部屋を女の子の部屋みたいにしておこうかな。本棚は隠さないと。シャーロックホームズと金田一耕助の本であふれてるからな。折り紙と占いとお菓子の本はそのままでもいいや。さあ、それから天気が良くなったら花屋さんに行って花を買ってきましょう。うわー、すごい楽しみだな。早く映画撮りたい、折り紙もたくさん折っておかないと。

吉野一生折り紙作品集

一生 スーパー コンプレックスおりがみ

吉野一生・著 おりがみはうす刊
B5判200ページ カラー口絵8ページ
定価2900円 送料430円
超難解折り紙の吉野一生作品集。

彼が元気なうちにと編集していた本ですが、遺作集となってしまいました。主な収録作品は猪、オートバイ、トリケラトプス全身骨格など。超難解折り紙愛好家には見逃せない1冊。（10月20日発売。前号で注文いただいた方もうすぐお手元に届きます。もうしばらくお待ち下さい。）

編集後記

★吉野一生さんの急逝をどう受け入れて良いのかわからない。無念でならない。今、我々の中で“吉野一生基金”（仮称）の設立について話し合っている。資金面・運用法など議論すべき点は多くあるが、例えば若い折り紙作家の国際交流を促進するようなことができないだろうか。（S.N.）★前回の「折り紙の哲学入門」が「第二回」になっていたことに気がついた人はどれくらい？（段ボール）

今日は 折り紙日記

でありやす！ 作：山梨 雅弘

テレビチャンピオンの巻



みなさん スゴイよと
思ってるうちー



◆恒例折紙探偵団の忘年会は十二月十四日か二十一日を予定しています。詳細についてはお問い合わせ下さい。

折紙探偵団定期会の お知らせ

- 会場 文京区民センター
 - 日程 10月26日（土）午後1時～
 - 会場 新装・おりがみはうす
 - 11月30日（土）午後1時～
- なお、10月26日か27日には、新装・おりがみはうすのオープニングセレモニーが予定されています。気軽にお出かけ下さい。

発行・折紙探偵団

〒112 東京都文京区白山1-33-8-216

ギャラリーおりがみはうす内

Phone (03) 5684-6040

発行人・西川誠司

編集人・岡村昌夫